

5

ケマーコン

平凡社
大百科事典

ENCYCLOPÆDIA
HEIBONSHA

五

大百科事典

5

1984年11月2日 初版発行
1985年印刷

定価は第1巻に表示しております

編集発行人——下中邦彦

発行所——平凡社

郵便番号 102
東京都千代田区三番町5
振替東京8-29639番
電話[03]265-0451番〈代表〉
[03]265-0455番〈営業〉

本文用紙——十條製紙株式会社

見返用紙——日清紡績株式会社

製版・印刷——株式会社東京印書館

株式会社ハナマチック・センター
フォト印刷株式会社

クロース——タニック株式会社

表紙箔押——斎藤商会

製本——和田製本工業株式会社

© 株式会社 平凡社 1984 Printed in Japan

③

凡例

見出し語

①一見出し語は、かな見出しを太字のかなで示し、次に漢字または欧文を掲げた。

あいち 愛知[県]

アイルランド Ireland

②一かな見出しは、日本語(日本慣用の字音読みによる漢字を含む)はひらがな、外国語(外来語を含む)はカタカナとした。日本語と外国語の合成語は、日本語の部分はひらがな、外国語の部分はカタカナとした。

アルカリせいしょくひん アルカリ性食品

③一日本語のかな表記は現代かなづかいで表した。〈おう〉と〈おお〉、〈じ・ず〉と〈ぢ・づ〉を区別するとともに、〈ち・つ〉が連音により濁音化したものは〈ち・づ〉を用いた。

おうちょうもの 王朝物

おおさか 大阪[府]

あづまかかみ 吾妻鏡

④一動植物名はカタカナをかな見出しとし、必要に応じて漢字を示し、英名、学名を付記した。

ウシ 牛 domestic cattle: *Bos taurus*

アワ 粟

foxtail millet: *Setaria italica* Beauv.

⑤一元素名、化学物質名、岩石・鉱物名などは、かな見出しはひらがなとし、学術用語により部分的にカタカナ表記とするものは、カタカナ表記の()内に漢字を示した。

りん リン(燐) phosphorus

かこうがん 花コウ(崗)岩 granite

⑥一日本、中国、朝鮮の人名は、原則として姓、名の順とし、生没年は西暦で示した。日本人名は日本年号を()内に付記した。中国人、朝鮮人以外の外国人名は原語つづりて表記し、かな見出しはファミリーネームで示した。

おだのふなが 織田信長

1534-82(天文3-天正10)

もうたくとう 毛沢東 Máo Zé dōng

1893-1976

ワシントン George Washington

1732-99

⑦一人名の称号は、原則として割愛した。

⑧一中国、朝鮮の人名、地名は日本語読みとし、漢字のほかには、中国のものには拼音を、朝鮮の場合はハングル音をマッキューン=ライシャワー方式で表示したものを付記した。なお、原音および原音の転訛で通用しているものは、これをかな見出しとした。

うなん 雲南[省] Yún nán shěng

はくとうさん 白頭山 Paektu-san

ナンキン 南京 Nankin: Nán jīng

⑨一外国語を出自とする概念語などには外国語を付記し、英語以外については必要に応じて[]内に何国語であるかを示した。

しょうどう 衝動 impulse: impulsión

きか 帰化

naturalization: Einbürgerung [ドイツ]

⑩一欧米語で語形の似通うものは英語で代表させた。地名で複数の国にまたがるもの(山脈、海などは)、見出し語には英語を掲げ、必要に応じて本文中で各国の呼称を示した。

⑪一人名、地名以外の中国の項目にも、拼音を付記した。

かきょ 科学 Kē jū

⑫一かな見出しがカタカナの外国の自然地名では、山、山脈、峠、川、湖、島、諸島、群島、列島、岬、峰は[]内に示した。

アンデス [山脈] Cordillera de los Andes

コディアク [島] Kodiak Island

コロンビアこうげん コロンビア高原

Columbia Plateau

配列

項目の配列は次の基準に従った。

①一五千音順に配列し、促音、拗音も音順に数え、清音→濁音→半濁音の順とした。

②一同音の項目は、カタカナ→ひらがな→漢字の順とし、促音、拗音など小字となるものは並字の後に置いた。

③一中黒(・)、音引(゛)のあるものは中黒、音引のないものの後に置いた。

④一同音の漢字項目は、第1字目の字画の少ないものから配列した。また、第1字目が同字画のときは、第2字以降の字画の少ないものの順とした。

⑤一同音同字の項目の配列は地名→人名→一般名詞の順に配列した。ただし、地名、人名に関しては次の基準に従った。

⑥日本地名は、自然地名→歴史地名→行政地名→その他、の順とした。

⑦外国地名は、国名→自然地名→地方名→行政地名→その他、の順とし、次に所属国名の五十音順とした。

⑧人名は、架空人名→実在人名の順。

⑨日本人名は生年順。

⑩外国人名は、パーソナルネームの欧文アルファベットの順に配列した。同姓同名の場合は生年順。

本文

①一本文の記述は簡明な表現とし、難解な漢語、敬語の使用はなるべく避けた。

②一かなづかい(はく現代かなづかい)により、固有名詞、固有術語、引用文などでは旧かなづかいも用いた。

③一漢字は、〈常用漢字表〉〈人名漢字表〉に掲げられたものは一般にその字体を用い、それ以外は慣用のあるものを除いて正字ないしは通用の字体を用いた。難読の漢字、誤読のおそれのある漢字には振りがなを施した。

④一送りがない(改定送り仮名の付け方)によって付し、活用のある語から転じた名詞および複合名詞では、慣用のあるものは送りがないを付けなかった。また、歴史用語などで特有の表記のあるものはそれに従った。

⑤一直送項目は▶▶▶で送り先を示し、参照送りは文中では各語の語頭の左上に・を付し、文末ではとくに参照要望度の強い語句を抜き出し▶▶▶によって示した。

⑥一大項目などで、いくつかの内容に分けて記述する場合は次のような区分をした。大見出し(【 】でかこむ)、中見出し(【 】でかこむ)、小見出し(〔 〕でかこむ)。

⑦一度量衡の単位はメートル法で示したが、尺貫法、ヤード・ポンド法が慣用されているものはそれによった。

⑧一年代は原則として西暦で表記し、日本年号、中国暦その他を示す必要がある場合は()内に示した。日本年号は、改元がまたがる場合、月日に関係なく新元号で示した。なお、日本の南北朝時代の年号は南朝、北朝の順で示した。

符号・記号

①一記述記号

〈 〉 書名、曲名、作品名、論文名などをかこむ。

くゝ 引用文または語句、特定の呼称、語義などをかこむ。

[] 見出し語中の地名の行政単位、自然地名の種類、語の限定などをかこむ。
: 2種以上の見出し、新旧両暦、2種以上の参照送り、2種の年号表記、2種以上の振りがなを区切るのに使用。

②一漢字略語

④国名、地域名については必要に応じて次のような略称を使用した。

亜(アジア)、阿(アフリカ)、米(アメリカ)、英(イギリス)、伊(イタリア)、印(インド)、豪(オーストラリア)、奥(オーストリア)、蘭(オランダ)、加(カナダ)、西(スペイン)、ソ(ソ連)、中(中国)、独(ドイツ)、土(トルコ)、仏(フランス)、普(プロイセン)、墨(メキシコ)、欧(ヨーロッパ)、露(ロシア)

⑤国指定の名勝、天然記念物などの略語

名(名勝), 特名(特別名勝), 天(天然記念物), 特天(特別天然記念物), 史(史跡), 特史(特別史跡)

◎図・表

■ 挿絵, 地図, グラフ, 写真など

表 年表, 統計表など

外国語のかな表記について

外国語のカタカナ表記の基準は, 下記のとおりである。

①全体として, 現地音を尊重しながらも, 日本語として無理なく発音できるような形に写すことを心かけた。

②エジソン, フルベッキなどのように, すでに慣用形のできているものは, その形を尊重した。

③ヴの文字は用いず, v は特記しないかぎりバ行音で表記した。

④各国語別の具体例については, 第1巻巻頭の〈凡例〉を参照されたい。

記号および略符号

a ——— アール
A ——— アンペア
Å ——— オングストローム
A. D. ——— 紀元後
atm ——— 気圧
[α]_D ——— 比旋光度 (20℃における
ナトリウムD線に対し)
bar ——— バール
B. C. ——— 紀元前
B. P. ——— 現在(1950年)以前
Bq ——— ベクレル
c ——— センチ (=10⁻²)
C ——— クーロン
℃ ——— セ(氏)温度
cal ——— カロリー
Cal ——— 大カロリー
cc ——— シーシー (=cm³)
cd ——— カンデラ
CGS ——— CGS単位
cm ——— センチメートル
cm² ——— 平方センチメートル
cm³ ——— 立方センチメートル
d ——— デシ (=10⁻¹)
d²⁰ ——— 比重 (15℃における)
d- ——— 右旋性
D- ——— D形異性体
dB ——— デシベル
deg ——— 度(温度)
dg ——— デシグラム
dl ——— デシリットル
dl- ——— ラセミ体
dm ——— デシメートル
E ——— 東経
emu ——— 電磁単位
erg ——— エルグ
esu ——— 静電単位
eV ——— 電子ボルト
F ——— ファラド
°F ——— カ(華)氏温度
g ——— グラム
g ——— 重力加速度
G ——— ギガ (=10⁹)
Gal ——— ガル
Gy ——— グレイ
h ——— 時またはヘクト (=10²)
H ——— ヘンリー
ha ——— ヘクタール
hPa ——— ヘクトパスカル
Hz ——— ヘルツ
J ——— ジュール
k ——— キロ (=10³)
K ——— ケルビン
kcal ——— キロカロリー
kg ——— キログラム
kgf ——— キログラム重
km ——— キロメートル
km² ——— 平方キロメートル
km³ ——— 立方キロメートル
kV ——— キロボルト
kW ——— キロワット
kWh ——— キロワット時
l ——— リットル
l- ——— 左旋性
L- ——— L形異性体

lm ——— ルーメン
lx ——— ルクス
m ——— メートルまたはミリ (=10⁻³)
M ——— メガ (=10⁶)
m- ——— メタ
m² ——— 平方メートル
m³ ——— 立方メートル
mb ——— ミリバール
mg ——— ミリグラム
mGal ——— ミリガル
min ——— 分
MKS ——— MKS単位
ml ——— ミリリットル
mm ——— ミリメートル
mm² ——— 平方ミリメートル
mm³ ——— 立方ミリメートル
mmHg ——— 水銀柱ミリメートル
mol ——— モル
μ ——— マイクロ (=10⁻⁶)
μm ——— マイクロメートル
n ——— ナノ (=10⁻⁹)
N ——— 規定または北緯またはニュートン
nm ——— ナノメートル
ns ——— ナノ秒
o- ——— オルト
p ——— ピコ (=10⁻¹²)
p- ——— パラ
Pa ——— パスカル
pH ——— 水素イオン濃度指数
ppb ——— ピーピーピー (10億分率)
ppm ——— ピーピーエム (100万分率)
rad ——— ラジアン
rpm ——— 毎分回転数
s ——— 秒
S ——— ジーメンスまたは南緯
sr ——— ステラジアン
Sv ——— シーベルト
t ——— トン
T ——— テスラまたはテラ (=10¹²)
V ——— ボルト
W ——— ワットまたは西経
Wb ——— ウェーバー
Wh ——— ワット時
° ——— 度
' ——— 分
" ——— 秒
% ——— パーセント(百分率)
‰ ——— パーミル(千分率)

ので、飛鳥井流が家職として蹴鞠道を独占して明治にいたった。▶▶蹴鞠(しゅうきく)

鈴木 敬三

ケマル・アタチュルク

Mustafa Kemal Atatürk 1881-1938

第1次世界大戦後におけるトルコの祖国解放運動の指導者。トルコ共和国初代大統領(1923-38)。テッサロニキの下級官吏の家に生まれる。1896年テッサロニキの陸軍中等学校、99年マナストゥルの陸軍高等学校、1905年イスタンブールの陸軍大学卒業。ダマスカス駐屯の第5軍に派遣され、06年同地で「アブデュルハミト2世に対する反専制運動を目的とする秘密結社〈祖国と自由〉を設立した。07年テッサロニキに移り〈統一と進歩委員会〉に参加、08年の「青年トルコ革命後、革命首脳部と相いれず、軍務に専心した。13年ソフィア駐在武官となり、第1次世界大戦中、ゲリボル半島に上陸したイギリス軍を撃退して国際的にその名を知られ(1915)、16年准将(パシヤ)に昇進した。大戦後、トルコ分割をもくろむ連合国に抗して祖国解放運動を組織し、20年4月、アンカラにトルコ大国民議会議政府を樹立して、連合国側にくみするオスマン朝スルタン政府(イスタンブール)に対し反乱を起こした。22年9月、西アナトリアのギリシア軍を追放して祖国解放運動に勝利すると、同年11月にスルタン制を廃止してオスマン朝を滅亡させ、23年7月に連合国との間にローザンヌ条約を締結してトルコの独立を確保、同年10月アンカラを首都にトルコ共和国を宣言し、その初代大統領となった。24年以降カリフ制の廃止をはじめとする一連の改革を実施しトルコ共和国の基礎を築いた。

彼は、いわゆる青年将校出身の革命家タイプで、早くからイスラム教徒である両親と別れ、テッサロニキやイスタンブールの国際都市で青年時代を過ごし、フランス語に堪能な西欧型の知識人であった。一方では妥協を許さぬ強い性格の民族主義者であったが、終生のライバル、*エンヴェル・パシャとは違って徹底した現実主義者であった。アナトリア在住のトルコ人とともに闘った祖国解放運動の勝利と共和国期の世俗主義的な改革の成功とは、彼のこうした個性によるところが多い。その反面、独裁者として権力を掌握するために、多くの有能な軍人・政治家を失脚させ、彼の死後におけるトルコ革命後退の原因をつくった。34年には大国民議会よりアタチュルク(父なるトルコ人)の称号を与えられ、その権威は今なお絶大である。▶▶トルコ革命 永田 雄三

ゲマルジカ guemalji *Odocoileus bisulcus* 偶蹄目シカ科の哺乳類。チリ南部のアンデスとパタゴニアに分布する中型のシカ。雄がY字形に二つの枝に分かれた角をもち、雌雄とも上あごに大きく鋭い犬歯をもつのが特徴。枝角は前方にのびる枝のほうが短い。雌には角はない。体長115

～160cm、尾長10～15cm。体色は灰色がかった黄褐色。標高3300～5000mの地に、雌が率いる8頭くらいまでの小さな群れをつくってすむ。夏を高地の草原で過ごし、冬は谷間の森林に入る。ふつう夜間活動するが、昼間も姿を見ることがある。交尾期は6～8月、雌は1～3月に1子を生む。飼育下での寿命は10年。家畜との競合と狩猟のため近年著しく個体数が減少している。よく似た種に、ペルー、エクアドル、ボリビア、アルゼンチン北部の山地にすむやや小型のペルーゲマルジカがある。

今泉 吉晴

けまん 華鬘

仏殿の内陣を荘厳とする仏具で、釣環^ㇿで長押^ㇿや梁^ㇿにかけられる。サンスクリット kusmamālā の訳。インドの風俗にはじまり、元来は生花を糸で貫いて首にかけ、装身具としたものである。のちに供養物として仏前に供えられるようになり、また花(華葩^ㇿ)をはずして*華籠^ㇿに入れ、これをまくのが散華供養である。中国、日本ではさらに転じて*荘嚴具となった。日本では天武天皇の死没に際してその殯宮^ㇿに花縵^ㇿが供えられたことが《日本書紀》にみえるが、これが生花であったか造花であったかは明らかではない。しかしその後、永久性を保つため木板、牛皮、金銅板、糸、玉などをもって代え、華鬘代と呼ばれ、さらにこれらも華鬘と称して現在に及ぶ。当初の生花を連ねた伝統は形式に残され、いずれも中央に結びひも状の装飾を残すのがふつうである。糸華鬘を除いて一般に、うちわ形の上部に釣環、下部に総金具、鈴、瓔珞^ㇿなどを付け、板のおもてに迦陵頻伽^ㇿ文、蓮華文、宝相華唐草文などを、金銅板製では透彫りで、木板や牛皮製などでは彩色で描いたものが多い。平安時代の代表作として、京都・東寺の迦陵頻伽文牛皮華鬘^ㇿ(現、奈良国立博物館)、岩手県中尊寺金色堂の(金銅宝相華文透彫華鬘^ㇿ)などがあげられる。

蔵田 蔵

ケマンソウ 華蔓草 bleeding heart!

Dicentra spectabilis (L.) Lem.

中国原産のケシ科の多年草。昔より庭園によく植えられ楽しめる宿根草で、15世紀ころすでに渡来していたといわれる。一名、フジボタン、タイツリソウ、ヨウラクボタンというが、いずれも、小花を垂れ下げて咲くその姿や葉の形から名付けられたものであろう。円筒状の茎を出して叢生^ㇿし、灰緑色の数回羽状複葉を茂らせる。4～5月ころ、心臓形をした桃紅色の扁平な小花を偏側する総状花序に垂れ下げて咲かせる。冬は茎葉は枯れ、根株で越冬をする。根にはアルカロイドのプロトピン protopine などを含み、薬用植物としても扱われる。栽培は排水よく保湿性のある所が適し、半陰地でも育つが、日当たりのよい所の方が花つきもよい。植え時は3～4月。繁殖は株分けによる。

柳 宗民

けみ 検見

〈けんみ〉ともいう。田方立毛(稲などの作物)を見分けたうえ坪刈りをし、稲の豊凶

に従い租税を決定すること。《地方^ㇿ凡例録》には「立毛の善悪を見分するばかりは検見でなく毛見という」とあるが、実際上の用語では両者は同一のものと解せられる。検見の語は1298年(永仁6)《東大寺文書》播磨国大部荘百姓申状、1323年(元亨3)《金沢文庫古文書》下総国東庄上代郷黒部村検見帳に見えるが、1586年(天正14)1月の羽柴(豊臣)秀吉の条目に、給人が在所へ越し百姓と相対で検見を遂げ、有米三分一を百姓に遣わし、三分二は未進なく給人取るべきこととある。同様に97年(慶長2)《長宗我部元親百箇条》に、國中知行方は毛見の上を以て三分二は地頭、三分一は百姓がこれをとるべしとある。しかしこの制法の施行や検見の手続は不明である。

検見の仕方は後述のように各種があるが、幕領では享保期(1716-36)までは*畝引検見^ㇿ取法が行われた。幕府は1718年*定免^ㇿ制施行の準備を命じ22年ごろからおいおいこれが実施されるとともに、*有毛検見^ㇿ取法に転換していった。すなわち畿内・中国筋では1744年(延享1)田方木綿勝手作仕法と併せ実施され、49年(寛延2)から幕領一般で施行された。享保改革後期には有毛検見取法によって年貢を引き上げ、これをもとに定免を請け負わせるなど露骨な収奪を行った。畝引検見取法は近世初頭の検地に基づく上・中・下・下々などの田品ごとに定められた根取米(1反当り取米)を、粳5合摺りとして2倍して300で除し、1坪当りの収量を出す。これを当合^ㇿといい、代官・手代が各田品限りに検見坪刈りし、検見収量が各当合より多いときは過剰分を不問に付し、少ないときは不足分を損毛として田品のおのの反別もしくは石高に換算して控除(畝引)し、残りの反別または石高に対して年貢を賦課する方法である。しかし検地当時の位・*石盛^ㇿが生産力の発展に伴い現実にはそぐわなくなり、検地帳が紛失して位・石盛がわからなくなった場合もあって、位・石盛やそれに対応する根取米・当合を廃し、実際の収権高をもとに年貢を決定する法として有毛検見取法が行われた。

村方では検見に先立ち村役人と地主が内見^ㇿ(立毛の下見)を行い、田1筆ごとに付け木に字、地番、田位、畝歩、内見毛付、持主名を記し篠竹に挟んだ立札を立て、内見合付帳と耕地地図を作成し、代官・手代に提出する。内見帳では有合毛(坪当内見収)ごとに反別を集計し、有合毛ごとに坪数を乗じ(皆無は除く)内見収高を申告する。代官・検見役人(手代)は上中下毛の各1ヵ所を坪刈りして春法^ㇿ(穀摺り)を行い、申告量(内見収、付出収)より多く刈り出した分の平均収量(刈出合)に稲作全坪数を乗じた刈出収を付出収に加えて収権^ㇿ総量を出し、幕領では5合摺り・5公5民であるから、その4分の1が当年の年貢米となる。なお代官が行う大検見と、手代2人ずつが行う小検見があって、小検見は賄略強要など弊害はなはだしいため1713年(正徳3)禁止されたが、19年復

活された。代官所は内見帳・歩刈帳をもとに下組帳を作り、さらに取箇帳を作成して検見終了帰府後30日以内に勘定所に申達した。

検見の種類は畝引検見・有毛検見のほか、有毛取の一種で古法の色取検見、簡略な法としての遠見検見・投検見・准合^あ検見・請免居検見があった。田方にタバコ、木綿、アイ、ペニバナ、アサや野菜を作付けすれば、百姓勝手作として1735年田方上毛並に合付することとした。38年(元文3)これまで破免検見引していた畑作を定免とし、破免検見引を田方に限ったが、畿内・中国筋は畑・田とも綿作をしているので^あ木綿検見^あを行った。木綿検見は小商品生産発展の成果を年貢として吸収する方法であり、綿の吹き終わる9月末ごろ坪竿を入れ、枠内の綿木を抜き綿の実(桃という)を取って数え、粒に換算して年貢を算出した。これも最初は畝引検見取法であったが、44年(延享1)有毛検見取法に転換した。有毛検見取法と田方木綿勝手作仕法による増徴は、勘定奉行^あ神尾春央^あらの上方筋巡見を機会に強行されたが、農民の訴願による抵抗を受けた。しかし新仕法は継続され、田方綿作は稲作や畑方綿作に比べ不利となり、衰退に向かった。なお検見の用語は明治以後も小作料算定・供出量割当に際しての作柄調査にも用いられる。 大野 瑞男

ゲーミング gaming

▶▶▶シミュレーションゲーム

けむし 毛虫

鱗翅目昆虫の幼虫の俗称の一つ。体の表面に長毛や毛束を密生するものをいう。主としてドクガ科、ヒトリガ科、カレハガ科、ヤマユガ科などの幼虫を指すが、チョウの幼虫にも毛を生ずる種がある。ドクガ科やカレハガ科の一部の種では触れと皮膚に炎症を起こすが、多くの種では無毒である。大半は植物の葉を食べるが、ヒトリガ科のうちコケガ類は樹皮や石面上の地衣類を食べる。 ▶▶青虫 茅虫 杉 繁郎

ケムニッツ Chemnitz

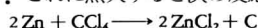
▶▶▶カール・マルクス・シュタット

けむり 煙 smoke

気体中に微細な固体粒子が分散した系を煙というが、普通には、ある種の燃焼過程で生成する不完全燃焼物などが微粒子となって浮遊した状態を指すことが多い。コロイド分散系の一つと考え、気体を分散媒とする分散系を「エアロゾル(煙霧質)」といい、固体粒子の分散した系を「くけむり」、液体の分散した系を「きり」と定義するが、この定義は必ずしも厳密には適用できない。というのは、種々の物質の燃焼のときに発生する煙は、非常に細かく分散した固体粒子とともに粒子上に凝縮した液体を含むことが多いからである。煙は一般に物質の不完全燃焼によって発生するが、その発生機構および成分は非常に複雑である。たとえばタバコの煙は、主として巻紙の炭化部分より少し後方で起こる蒸発・熱分解過程で発生した成分が空気中で急冷され凝縮の結果

生じる。1cm³中に10¹⁰個程度の煙粒子を含み、粒径は0.2μm前後である。この煙粒子は蒸気部分とタール部分から成り、タール部分は全体の8%を占めるが、その成分は非常に複雑で3000種程度が確認されている。フィルターにより個数は約半分に減るが、粒径は少し大きくなる。石炭の燃焼で生じるばい煙はすす(煤)を多く含む。すすは、高温での熱分解生成物が重合し、脱水素、環化を繰り返して縮合ベンゼン環を多く含むものである。大都会や工場地帯で多量の燃料の不完全燃焼によるばい煙や塵埃^あの粒子が凝結核となって霧を生じる。これを「スモッグ」という。歴史的にロンドン・スモッグが有名で、これは石炭の燃焼で生じるばい煙と硫酸化合物が中心となって生じる黒い濃霧で、1952年12月には4000人以上の死者を出した。また、自動車排気中の汚染物質が太陽光線の作用をうけて生成する白いスモッグをロサンゼルス・スモッグといい、55年の夏には300人以上の死者を出したという。このような「大気汚染で問題になるのは粒径が10μm以下の浮遊粒子状物質で、ダスト、ヒューム、ミストに分類される。ダストは固体粒子、ヒュームは凝縮固体粒子、ミストは液体粒子である。これらの粒子は静かな空気中ではしだいに落下し、たとえば半径10μmの水滴は毎秒1.2cm落下するが、空気の流れがあると容易には落下せず、いつまでも上空に浮遊する。

煙は遮へい用の煙幕および信号として利用される。煙幕としてよく使われるのはベルゲル混合物Berger mixtureで、たとえば四塩化炭素CCl₄50、亜鉛末Zn25、酸化亜鉛ZnO20、ケイ藻土5の組成をもつ。これに点火すると次の反応が起こる。

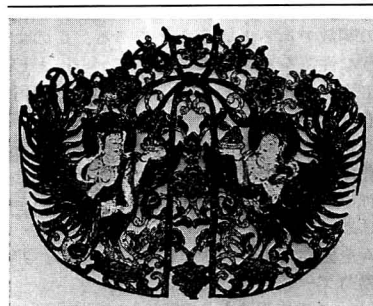


生じた塩化亜鉛ZnCl₂は反応熱のため蒸発し、水分を吸って白煙となる。信号用としては着色煙が使われる。たとえば塩素酸カリウムと乳糖の混合物に色素を加え点火すると、乳糖の燃焼熱で色素が昇華し空中で凝結して有色煙となる。

妹尾 学

ゲームりろん ゲーム理論 game theory

ゲームの理論theory of gamesとも呼ばれる。数学者*J.フォン・ノイマンと経済学者モルゲンシュテルンO. Morgensternとの共著『ゲームの理論と経済行動』(1944)を出発点として発展した理論で、20世紀前半における最も輝かしい科学的業績の一つである。室内ゲームから、政治、経済、社会に至るさまざまな問題をゲームとして定式化して考察するが、ここでのゲームとは、これらの問題を規定する1組のルールのことである。ルールとして明確にしなければならないことに、次のようなものがある。①プレイヤー 意思決定し行動する主体はだれかということである。プレイヤーは個人であっても、企業や政党や国家などの何らかの組織であってもよい。②とりうる行動 各プレイヤーのとりうる行動は何か。それは自然の法則や社会的条件によって制約され



【華簪】上へ「迦陵頻伽文牛皮華簪」。東寺に伝わった13枚の牛皮(20)華簪の一つ。中央に総角(あげまき)、両側に迦陵頻伽を配し、宝相華唐草で埋める。平安時代 奈良国立博物館 下へ「華嚴縁起」にみえる仏堂の華簪。柱には幡(ばん)を掛け、柱間に華簪をつる。鎌倉時代 高山寺

たもので、各プレイヤーは自分のもつとりうる行動から、いくつかの行動計画を立てるのが普通である。この行動計画を戦略と呼ぶ。③時間要素と初期状態 ゲームが1回限りのものか、何段階にもわたって行われるものか、また終了時点が定まっているかなども、ゲームを定める重要な要素である。そのときゲームの出発点におけるプレイヤーの状態もまたプレイヤーのとりうる行動を規制する。④利得と利得関数 各プレイヤーが何らかの戦略をとってゲームは終了し、ある結果が定まる。この結果について、各プレイヤーは何らかの評価をもち、各プレイヤーにとっての評価値が定まる。この評価値をプレイヤーのもつ「効用」とか、受けとる利得と呼ぶ。ゲームには偶然の要素がしばしば加わり、相手の行動の予測が困難な場合が多いから、リスクや不確実性のもとでの意思決定の問題に直面する。フォン・ノイマンとモルゲンシュテルンは、このようなリスクのもとでのプレイヤーの選好を公理化し、今日、フォン・ノイマン=モルゲンシュテルン効用と呼ばれる効用の概念を定義した。ゲーム理論では、利得はフォン・ノイマン=モルゲンシュテルン効用によって表すのが普通である。結果は各プレイヤーのとりうる戦略によって定まるから、利得は各プレイヤーのとりうる戦略の関数である。この関数を評価関数、利得関数などと呼ぶ。ゲームとして最も本質的なことは各プレイヤーの利得は自分のとりうる戦略の関数である

だけでなく、他のプレイヤーのとり戦略の関数であるということである。このような性質をもつ現象はすべてゲームとして表現されるというよい。⑤協力の可能性 プレーヤーは自主的な判断にもとづいて行動するが、そのときプレイヤー間において、何らかの話し合いを行い、それぞれのとるべき行動について取決めを結ぶことが可能であるときに、このゲームを協力ゲーム、そうでないときに、非協力ゲームという。

[ゲームの表現法とその理論] ①展開型

非協力ゲームをゲームの木、情報集合などを用いて表した形で、最も詳細な表現法である。ゲームの木とは、分岐点と頂点と選択枝(枝)とからなるもので、例えば、 P_1, P_2, P_3 の3人のプレイヤーがそれぞれ二つ選択枝をもっていて、まず P_1 が選択し、次に P_2 は P_1 の選択の結果を知らずに、自分の枝の中から一つを選択し、次に P_3 は、 P_1 の選択を知り、 P_2 の選択を知らずに、自ら選択して、ゲームが終了するとすると、この関係は、図のようなゲームの木で表される。この図で分岐点をかこんだものは、プレイヤーが自分の意思決定にあたって、どの範囲の分岐点にいるかを知っていることを示す集合で、情報集合と呼ばれる。プレイヤーがもつ分岐点は、いくつかの情報集合に分割されて、それはプレイヤーの情報構造を示すと考えられる。 t_i は頂点で、ゲームが終了したときの状態を示し、それぞれの頂点(ゲームの結果)に対して、各プレイヤーは何らかの評価(効用、利得)をもつ。このような展開型によって、情報構造と意思決定の関係が詳細に分析され、社会的状況における情報の問題に多大の考察を与えている。

②戦略型または標準型 プレーヤーのもつ戦略を中心にゲームを表現したもので、 n 人のプレイヤー $P_1, P_2, \dots, P_n$ がそれぞれとりうる戦略の集合 $S_1, S_2, \dots, S_n$ をもっていて、その中から、ある戦略 $r_1, r_2, \dots, r_n$ を選ぶことによってゲームが終了したとすると、プレイヤー P_i の利得関数は、 $f_i(r_1, r_2, \dots, r_n)$ と表すことができる。プレイヤーが2人で、それぞれ3個の戦略をもっているとすると、戦略と利得の関係は、

$P_1 \backslash P_2$	1	2	3
1	(a_{11}, b_{11})	(a_{12}, b_{12})	(a_{13}, b_{13})
2	(a_{21}, b_{21})	(a_{22}, b_{22})	(a_{23}, b_{23})
3	(a_{31}, b_{31})	(a_{32}, b_{32})	(a_{33}, b_{33})

と書くことができる。ここで a_{ij} は P_1 、 b_{ij} は P_2 の利得である。このような行列を利得行列という。つねに2人の利得の和がゼロのときにはゼロ和2人ゲームという。 P_1 の利得を a_{ij} とすると、 P_2 の利得は $-a_{ij}$ である。例えば、行列 (a_{ij}) を、

$$A = \begin{bmatrix} 2 & 0 & 6 \\ 0 & 3 & 2 \\ 4 & 5 & 1 \end{bmatrix}$$

とすると、この行列は P_1 の利得行列で、この利得行列に関して、 P_1 は最大値を求めるプレイヤー(最大化プレイヤー)であり、 P_2 は最小値を求めるプレイヤー(最小化プレイヤー)である。この場合には、両者の利害は完全に対立し、最大化プレイヤーは相手が最小化しようとするを考慮して、自分の戦略 i に対する最小値

$$\min_j a_{ij}$$

を考え、その中の最大値を与えるような戦略、すなわち、

$$\max_i \min_j a_{ij}$$

となる戦略をとるのが最適であるといえる。このような戦略をマックスミニ戦略という。最小化プレイヤーにとっては、逆にミニマックス戦略が最適戦略である。このような行動原理(戦略の選択基準)を一般にミニマックス原理という。

非ゼロ和 n 人ゲームは非協力ゲームと協力ゲームとに分かれる。非協力ゲームでは、自分以外のプレイヤーがある戦略をとっていて、自分だけが戦略を変えても利得が増加しないとき、その戦略の組を均衡点と呼ぶ。次のような囚人のジレンマ型ゲームでは、

$$\begin{matrix} & \beta_1 & \beta_2 \\ \alpha_1 & (5, 5) & (0, 8) \\ \alpha_2 & (8, 0) & (1, 1) \end{matrix}$$

(α_2, β_2) という戦略の組が均衡点である。そのとき利得は $(1, 1)$ であるから、それは $(5, 5)$ という利得の組より、2人とも少ない利得しか与えられない戦略の組である。このように、非協力的状況においては、プレイヤー間の戦略の均衡が必ずしも最適とはいえない場合が生ずる。非協力ゲームは人間の社会的行動の基礎として、その構造が研究されており、また経済学における競争市場の分析をはじめとして、広い分野で応用されている。

戦略型協力ゲームでは、プレイヤー間の交渉結果のもつべき基本的性格を公理化し、その基準をみたく一意の利得分配を定めるナッシュ解がよく知られている。

また同一のゲームが反復して行われる反復ゲーム、ある部分ゲームから他の部分ゲームに確率的に移行する確率ゲーム、ゲームの状態や戦略が連続な時間の関数として表される微分ゲームなどのように、時間の経過に伴って行われるさまざまな多段階ゲームがある。

③提携型または特性関数型 協力ゲームの表現方法で、 n 人のプレイヤーのうち何人かが提携して、その提携内では合意によってとるべき戦略が決定され、提携としてのとりうる値(提携値)が定まるような状況を示すものである。各提携に対して、その提携値を与える関数を特性関数と呼ぶ。この特性関数を使って、どのような提携が成立し、どのような利得分配が成立するかを考えるのが、このタイプのゲームの主たる問題である。

与えられた状況のもとで、プレイヤーがどのような行動基準にもとづいて行動するかによって、さまざまな解の概念が

ある。どの提携をとってみても、その提携のメンバーの受けとる利得の和がその提携の提携値をこえているような利得分配の集合をコアといい、経済学では広く用いられていて、市場の取引の結果はコアに属することが知られている。提携として行動するというのを強く意識して考えた概念にフォン・ノイマン=モルゲンシュテルン解(安定集合ともいう)があって、寡占市場や政治問題の分析に用いられている。交渉過程において、プレイヤーが提案された利得分配に対してもつ異議やそれに対抗する逆異議を厳密に定義して、交渉の結果を求めたものに交渉集合、カーネル、仁などがある。仁は各提携から出される最大不満を最小にするという考え方から導かれたもので、唯一の利得分配を与える。またシャープリー値はそのゲームにおいて、さまざまな提携がつくられる際の各プレイヤーの貢献度の平均値を表す指標である。投票の分析でよく用いられ、その際にはシャープリー値は投票者ひとりひとりがその投票メカニズムにおいて持ちうる力を示す投票力指数となる。このほかにも、提携構造と利得分配との組の安定性を考察した ψ 安定など、問題の状況に応じた解の概念がいくつか研究されており、ゲーム理論の多様性を示している。

[ゲーム理論の性格] ゲーム理論とは、簡単にいえば、1組のルールによって定義された対象に関する数学の一分野であるが、その内容は広い領域にわたって深いものをもっている。同じくゲームから出発した確率論を意思決定理論という面で比較すると、確率論はただ一人の意思決定主体が偶然事象に直面したときの意思決定に関する理論であるのに対して、ゲーム理論は複数の意思決定主体が相互依存の関係にあるときの意思決定に関する理論である。ゲーム理論は自由な自立的な人間を前提として、その相互依存関係のもとでの意思決定、行動、効用などを考える人間関係の数学的理論であり、それを通して社会の構造を明確に認識することができると言える。すなわち、ゲーム理論は社会認識のための数学的理論である。

したがって、それは単に数学の一分野というだけでなく、哲学、倫理学などの人文科学、社会学、政治学、経済学、経営学などの社会科学をはじめとして、統計学、情報科学、オペレーションズ・リサーチ、計画学、その他の理学や工学の基礎理論として重要な役割をになっている。例えば、経済学においては、投票の理論や、公共財の供給やその費用負担を中心とする社会的選択理論、寡占市場を出発点とする市場理論や一般均衡理論などは、ゲーム理論によって厳密に基礎づけられることによって初めてその構造が明確になったといえることができる。このように広い分野で重要性が認識されるに伴い、20世紀における最も重要な科学的貢献の一つといわれている。 鈴木光男

ケメロボ Kemerovo

ソ連邦ロシア共和国シベリア南部、同

名州の州都。人口49万5000(1983)。トム川の西岸にまたがり、トム川中流の要港である。付近に豊富な炭層があり、1907年に採炭をはじめ、ソビエト時代にクズバスの主要な中心地となった。主要産業は化学工業、採炭、機械製作で、軽工業、食品工業、建設資材工業も見られる。工業、教育、医学、文化、食品工業の各大学がある。32年までの旧称はシチェグロフスク Shcheglovsk。 山本 敏

けもの 獣

毛物の意味で《和名抄》は毛皮ある動物の総称とし、そのうち家畜をくけだものとしており、《伊呂波字類抄》《和漢三才図会》もこれにならっている。これに対して《和訓栞》は、獣類の総称をくけだもの、家畜をくけものという俗言のほうが、《日本書紀》の訓のとおりであるから、このほうがむしろ当たっていると論じ、結局両者同じものを指すとした。《古事記伝》も同じ結論をとっている。この点で《大祓詞》に家畜を殺すことをくけものたおしの罪と述べていることは、これが家畜をとくに指すことばであった証拠のように思われ、くけだもののはうを野獣までを含めた四つ足の毛皮獣の総称とする《和訓栞》の説が適当なものと判断される。古代には野獣を捕殺することは罪ではなかったからである。また、人非人をのしる場合にくけだもの奴などといって、くけものめといわないのも、語調もあろうが人の靈魂が生まれ変わる場合もあるという家畜よりも、野獣を一段低くみていたあらわれではなかろうか。

千葉 徳爾

けものみち 獣道

獣が、行動圏内の日常的な移動に一定の経路をたどることから成立する通路。一般には、やぶの中を切り開いてつくられるノウサギの道のように、一見してそれとわかる一定の特徴をもつ。大規模なものでは、丘陵地の等高線に沿ってつくられる自動車道と見まがうようなアフリカゾウの道、毎年季節的な移動経路として多数の個体によって使われるため、岩がすり減ってくぼみをつくるトナカイの道などがあり、特殊なものとしては、水場と水場を峠を越えてつなぐカワウソの道、モグラのトンネル・システムなどがある。

獣は、一定の行動圏をもつ一定の土地で定住生活を送っているが、必ずしも日常的な生活の中で行動圏内のあらゆる場所を利用しているわけではなく、一定の決まったポイントを重点的に使用する。獣道は、行動圏内の重要な生活の場であるそれらのポイント(採食場、排泄場、隠れ場、巣、貯蔵場、テリトリー標識、ぬた場、集会場など)をつなぐ機能を果たしている。ただし、どのような場所にも明確に認められるわけではなく、一般的には開けた場所よりも、やぶなどの障害になるものの多い場所に獣道は明確につくられる。これは障害になるものを獣がきらい、一定の移動しやすい経路をしだいに限定するようになることの結果であると思われ、したがって、大型獣よりも小型獣のほう

が、また砂漠や草原などにすむ種よりもやぶや森林などにすむ種のほうが、目だった獣道をつくる傾向がある。

獣道は、また、単なる通路である以上に動物の個体間の情報交換の場として重要な機能を果たしているものと推測される。例えば、多くの種は自身の獣道を特別なおいによって標識するための特殊な腺を発達させている(ヤチネズミ、スミスネズミなどの体側腺、有蹄類の蹄間腺、モグラ類の腹部の腺など)。これらの腺から分泌されるにおいを獣道に標識することによって、動物がどのような情報を伝達しあっているのかについては不明点が多い。

今泉 吉晴

〔民俗〕西日本から中部山地まではウジ、またはウツと呼び、東日本では主としてト、またはトアドというのが一般的である。そのほかノウテ(十津川)、カケリ(祖谷山)、トウリ(伊豆西部)など、土地ごとの名がある。同じ獣道も動物の種類によって経路は異なり、鹿には鹿独自のウジがあって、他地からやってきた鹿も同じ経路を通過する。このため経験ある狩人はウジに待機して獲物のくるのをねらって射撃する。奈良県吉野郡などではこれをウチマチという。この経路をみて足跡の新旧を見定める役をトギリといって狩りの功者の仕事として多く報酬を配分する土地もある。古くはウジに仕掛弓やわなをかけて獣をとることも盛んであったが、危険を伴うため禁じられた。京都府の宇治や静岡県の宇都谷峠、栃木県宇都宮などの地名もこの呼称と関係すると考えられる。

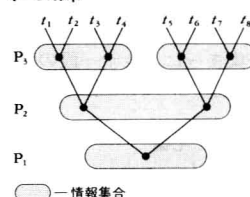
千葉 徳爾

ケヤキ 樺

Zelkova serrata (Thunb.) Makino

谷間の肥沃地に生え、都市の街路樹としても多いニレ科の落葉大高木で、日本の代表的広葉樹の一つである。古名はツキ(槻)。扇を半開したような美しい樹容をなし、高さ40mに達するものがある。樹皮は灰白色で、老木では大きな鱗片となって剝離する。葉は2列状に互生し、狭卵形ないし卵状長楕円形で、長さ3~10cm、表面がざらつき、側脈の先端は鋭い鋸歯に終わる。葉の裏と柄に短毛の密生する型をメゲヤキという。4~5月、淡黄緑色の花を開き、新枝の下部の葉腋には1~数個の雄花を束生し、また上部の葉腋にふつう1個の雌花をつける。萼片は4~6裂、雄花のおしべは4~6本、雌花にも時に1~数本の小さいおしべがある。10月、いびつな球形の灰黒色石果を結び、小枝とともに落ちる。青森県から鹿児島県北部までの各地と、朝鮮、中国の温帯と暖帯に分布し、湿潤肥沃地を好む。とくに武蔵野では屋敷林や街路樹としてみごとなものがある。たとえば、都下府中市の大国魂神社の並木は国の天然記念物である。しかし概して大気汚染に弱く、街路樹の中には夏に季節はづれの落葉をするものもある。材は黄褐色か紅褐色の環孔材で木目が美しく、重硬で狂いがなく保存性も高いので、建築・船舶・車両・機械・楽器・彫刻材に供され、

【ゲーム理論】図-ゲームの木



【ケヤキ】



上一果実をつけた枝。

a—果実、

b—めしべ、

c—おしべ、

d—花をつけた枝。

下一樹形。



とくに社寺の構造材や大黒柱に、また盆、漆器の本地などに賞用される。樹皮も箕などの細工物に用いられる。風致木、庭園樹としての利用のほか、盆栽としても喜ばれる。

濱谷 徳夫

けやのおおと 芥屋大門

福岡県糸島半島西部、志摩町芥屋にある玄武岩の海食洞(天)。玄海国定公園に含まれる。玄界灘に突出する標高64mの大門崎が見事な柱状節理をみせる絶壁をなし、その下部が荒波で浸食されて海食洞の大門を形成した。大門の入口は満潮時で海面上の高さ8m、幅10m、水深10mである。奥行は90mで、波の静かなときは遊覧船で40mまで入れる。 土井 仙吉

けやむら 毛谷村▶▶彦山権現誓助剱(ひこ)

さんCANげんちかむのすけだち)

けやむらろくすけ 毛谷村六助

安土桃山時代の剣術の達人。生没年不詳。豊前国(福岡県)の彦山のふもとに住む百姓であったが、武芸にすぐれ、老母に対する孝行でも知られる。実伝はくわしくはわからないが、毛谷村六助を主人公とする時代物浄瑠璃「彦山権現誓助剱」が、1786年(天明6)大坂で初演されて大当たりとなり、その後繰り返上演され、黄表紙・合巻・読本などにもとりあげられたため、広く知られる人物となった。作中の六助は、吉岡一味斎から八重垣流の剣法を伝授されたが、師一味斎がその娘お菊に横恋慕した京極内匠に暗殺されたため、一味斎の妻お幸、娘お園、お菊の子弥三松を助けて敵討を果たす。《敵討巖流島》に構想が似ており、京極内匠が実は明智光秀の子であったというのも、

それに先立つ宝暦期(1751-64)の時代物の定型であるが、お園という女丈夫の活躍が目ざましく、お園を助ける六助に人気が集まった。全十一段の中で九段目く六助住家(毛谷村)は歌舞伎でも名高い。

大隅 和雄

ケヤリ 毛槍

Sporopchnus scoparius Harvey

漸深帯に生育し、昔大名行列のときに供の者がもった鳥の毛のついた槍に似た生殖器官をつける褐藻。日本の太平洋沿岸の関東以南、四国、九州、朝鮮に分布し、オーストラリアやインド洋にも生育が知られる。体は円柱状で、高さ30～60cmになり、各方面に枝を出す。生殖器官は先のふくらんだ棍棒状の小枝として枝の上に羽状に互生につく。小枝の先端には毛の束があり、そのようすが大名行列に使った毛槍に似る。和名はこのことに由来する。棍棒状の生殖器官の表面には孢子嚢が密生し、中から泳ぎ出した遊走子は発芽して微細な糸状の配偶体となり、ここに卵と精子が形成される。受精した卵は分裂を繰り返してふつうに見るケヤリの体に発育する。その生活史の様式はコンブに似る。とくに利用されることはない。

千原 光雄

ケヤリ 毛槍

fan-worm: *Sabellastarte indica*

多毛綱ケヤリ科の環形動物。ケヤリムシともいう。陸中海岸以南からインド洋にかけて分布し、薄い膜の上に泥を固めてつくった太い管の中で生活する。管は干潮線付近の岩の割れ目などに付着し、管の先端から鰓冠をだして広げ、呼吸をしたり、餌のプランクトンをとったりする。このようすが昔、大名行列のときに使った毛槍に似ているところからこの名がある。大きな個体では体長25cm、環節数170にもなり、鰓冠部、胸部、腹部に分かれる。鰓冠は多くの鰓糸からなり、黄褐色に紫色の斑点をもつ。胸部は8剛毛節よりなる。水中で広げている鰓冠の上で光を遮ったり、水を振動したりするとしばやく管の中に引きこんでしまうが、これは一部の神経がとくに太いためにこのような機敏な動作ができるのである。

今島 実

げゆじょう 解由状

日本古代において、官吏の交替の際、新任者が前任者との間の交替事務を完了した旨を記して発給する公文。前任者は一定期限内にこれを太政官に提出しなければならず、また解由状を得られなければ次の官職につくことができなかった。解由状がいつごろ行われたかは不明であるが、遅くとも731年(天平3)まではさかのぼる。当初はおもに財政監察の意図から国司の交替時にもみ発給されていたが、厳密には守られていなかった。平安時代に入り、租税制度が弛緩して国家財政が悪化しはじめるとともに、現地での租税徴収責任者である国司に対する監察

強化の一環として解由制度の励行が強調され、解由状の監察を目的とする*勘解由使が太政官の内局として設置された。また809年(大同4)には中央の諸官司の官吏交替にも解由制度が適用されることとなり、官吏全般に対する監察制度となった。《延喜式》によれば解由状は2通作成され、太政官を通じて、1通は式部省に送られて官吏の勤務評定の資料とされ、他の1通は勘解由使に下して内容を監察した。解由状の書式は《延喜式》に定めるが、時代を追うとともに書式も多様化し、《朝野群載》には11～12世紀ころの4種の書式を載せている。

吉岡 真之

ケラ 蟻姑

mole cricket: *Gryllotalpa africana*

直翅目コオロギ上科ケラ科の昆虫。俗にオケラともいう。地表近いうち中にトンネルを掘り、その中で生活する。前脚が土を掘るためにシャベル状に特化し、モグラの前脚を思わせる。雄は小さな前翅を振動させてジージーと低い音で鳴く。日本全国、アジア、アフリカ、オーストラリアなどに広く分布する。全体が茶褐色で、体長約30mm。頭は小さく、筒状で大きい前胸背板にすっぽりとはまっている。触角は短く、この点で他のコオロギ類と異なっている。前胸背板には金色の細毛が密生している。前翅は短く楕円形、後翅はより大きく、その先端は腹端をこえ、燕尾状になっている。前脚は鋭いつめを備えた開掘肢であるが、中脚はふつうの歩行肢、そして後脚は短いながら跳躍肢となっている。腹部は円筒状。産卵管は退化している。おおむねトンネル生活をするが、夜間地上に出ることもあり、複眼も単眼も備えている。雑食性で、植物の根やミミズなどを食べ、農作物の根も食べるので害虫とされる。5、6月に土中に卵をかためて産む。かえった幼虫は秋までに成虫となり、越冬直前になると越冬地を求めて飛び出す。このとき灯火に飛んでくることもある。アカオビトガリアナバチ(体長17mm前後、土中に営巣)など *Larra* 属のハチが天敵で、このハチは特異的にケラだけを狩り、幼虫の餌とする。

山崎 柄模

ケラ 啄木鳥

*アリスイ類を除いたキツツキ科の鳥の総称。日本産のキツツキ類の和名は、*アカゲラ(赤啄木鳥)とか*アオゲラ(青啄木鳥)とかのように、その種の特徴を表した語の後に、語尾としてケラがつけられている。また、キツツキ類に形態や習性の似ている鳥の和名にも用いられ、例えば*ケラインコは尾羽の羽軸がキツツキのようにかたいことから名付けられている。

齋藤 隆史

ケラ cella [?]

ギリシア・ローマ神殿において、周囲の列柱廊部分から壁によって区別された、神殿の本体を指す用語。しばしば、内陣、すなわち神像を安置する神殿の主室であるギリシア語のナオス naos と同義に使われる。しかし厳密には、ナオスのほかに、プロナオス pronaos (玄関間、前室)およびオ

ピストドモス opisthodomos (裏玄関間、後室)を含む。ケラを囲う壁に窓はなく、光は出入口からのみ採られる。

福部 信敏

ケラー Gottfried Keller 1819-90

スイスのドイツ語作家。チューリヒのろうくろ職人の息子として生まれたが、5歳の時父を事故で失い、以後妹と共に母の手ひとつで育てられる。小学校を出て実業学校へ進んだが、1834年にささいな事件で退学処分を受け、それから画家になろうと修業を始めた。40年から2年間ミューンヘンに留学したが、結局十分な成果が得られず失意のうちに帰郷し、画業は諦め文学の道に進む。この波乱に富んだ生い立ちは、後に、母への感謝と悔恨の気持ちをこめて、自伝的長編小説《緑のハインリヒ Der grüne Heinrich》(1854-55)にまとめられた。

文学に転身したケラーは、まず詩人を志し、恋愛詩や政治詩を書いて認められ、《詩集》(1846)を出した。政治詩には、当時チューリヒに亡命していた急進的詩人ヘルヴェークやフライリヒラートの影響があり、また当時スイスを二分していたプロテスタント諸州とカトリック諸州との抗争に積極的関心を示し、プロテスタント義勇軍に2度も参加している。1848年にチューリヒ州の奨学金を得て、ドイツのハイデルベルクに留学、ここで無神論の哲学者フォイエルバハの講義を聴き、決定的影響を受けた。50年にベルリンに移り、ここに5年間滞在、苦しい生活を送りながら、少年の人間形成の過程を描く教養小説《緑のハインリヒ》や、スイス人の生活をユーモアをこめて批判的に扱った短編集《ゼルトウィーラの人々》(第1巻1856、第2巻1874)を執筆。61年にチューリヒ州政府第一書記に選ばれ、以後15年間在任、その間にはもっぱら政治生活に専念する。退職後文筆生活に戻り、故郷の歴史に取材した《チューリヒ短編小説集》(1878-79)、《緑のハインリヒ》の改作(1879-80)、恋愛小説集《寓意詩》(1882)、時代批判的な長編小説《マルティン・ゲランダー》(1886)をやつぎばやに発表し、ドイツ語リアリズム文学の最高峰と目されるに至った。

石井 不二雄

ケラー Helen Adams Keller

1880-1968

アメリカの女流著述家、社会事業家。アラバマ生れ。2歳時の疾病によって盲、ろう、啞の三重障害者となったが、家庭教師であるアン・サリバン Anne Sullivan Macy (1866-1936)の献身的努力と本人の不屈の自立精神で障害を克服。パーキンズ盲学校を経て、ラドクリフ女子大学を1904年に優等で卒業。その後、アメリカ、ヨーロッパ、アジアに講演旅行。それによって集まった基金を、盲その他の障害者の訓練・教育事業のために投じた。その社会的貢献に対してテンブル大学より31年に人文博士、グラスゴー大学より32年に法学博士の称号が授与された。37年以来再三訪日し、それを記念してヘレンケラー協会が設立され、日本の戦後の盲人を含む障害者福祉の発展に大きな影響

を与えた。著書は《私の生涯》(1903)、《私の住む世界》(1908)、《私の宗教》(1940)など多数。

小島 善子

ケーラー Martin Kähler 1835-1912

ドイツのルター派神学者。ハレ大学組織神学教授。ローテ R. Rothe、トールック、ミュラー J. Müller、ベック J. T. Beck、ホフマン J. C. K. von Hofmann の影響を受け、さらに信仰覚醒運動の影響も受けて、保守的信条主義とも急進的自由神学とも異なるいわゆる《調停神学》の立場に立った。その神学の中心は、宗教改革の根本原理である《信仰義認》であって、彼は弁証学の中でその義認信仰の前提を、教義学の中でその対象を、倫理学の中でその実証を展開した。《いわゆる史的イエス》と《歴史的・聖書のキリスト》という彼の有名な区別は、信仰と歴史の問題で20世紀神学の先駆的役割を果たした。弟子の中には、ティルヒヒやシュニウウィント J. Schniewind がいる。

近藤 勝彦

ケーラー Wolfgang Köhler 1887-1967

ドイツの心理学者。1909年ベルリン大学で学位を得た後、フランクフルト大学でヴェルトハイマーの助手をつとめ、ゲシュタルト心理学の創始者の一人となった。13年から20年まで大西洋のテネリフェ島で類人猿をはじめとした動物の知能の研究に従事。チンパンジーの問題解決行動から、状況の全体的把握と関係の直観的理解の重要性を見だし、これを見通し《Einsicht》と呼んだ。その成果は《類人猿の知恵試験》(1917)にまとめられた。物理学者 M. プランク に学んだケーラーはその豊かな物理学の知識をもとに、20年には物理現象にもゲシュタルト法則が適用しうると主張し、同時に心理過程と脳の生理過程は同一であるという心理物理同型論を発表。34年アメリカに移るまで、ベルリン学派と呼ばれるゲシュタルト心理学の隆盛な一時期を築いたが、後年は図形残効の研究に力を注ぎ、終生理論家であると同時にすぐれた実験者でもあった。

小川 俊樹

ゲラ

活字組版を入れる長方形の盆。英語の galley からきた語。組みゲラと置きゲラの2種がある。前者は隣接した2辺に縁があり、植字作業に用いる。すべて木製のものと、底が黄銅製のものとがある。置きゲラは、取りゲラともいい、組みあがりの版を運搬あるいは保存するのに利用する。3方に縁があるが、積みあげて保管する際、活字の面が上のゲラ底に触れないように、縁が活字の高さより高くできている。なお、組みゲラに入れたまま刷った校正刷りのことをゲラ刷りというが、現在では活版の校正刷りすべてをいう場合が多い。▶▶活版印刷 山本 隆太郎

ゲラー Gera

東ドイツ南部の同名県の県都。人口12万6069(1981)。エルベ川の支流ワイセ・エルスター Weisse Elster 川に沿う。電子・電機・機械・車両製造・繊維工業が盛んで、鉄道、高速道路の結節点でもある。13世紀半ばには文献に市として現れ、織物と

鉱山の町として栄えた。1525年*ドイツ農民戦争中の農民蜂起をはじめ、1830-31年都市民衆の蜂起などを経て、1920年*カップ―揆に対する労働者のゼネストまで激動の歴史をもつ。

下村 由一

けらい 家来

一般に武家で主君に仕える家臣のことをいう。ほかに公家や庄屋、地主などの従者についても用いられた。平安時代の記録には《家礼》とあるが、これは家長や親に礼をつくすこと、転じてそれと同様他人に礼をつくす随従する者をいう。《貞丈雑記》に五摂家より分かれた公家衆や輕輩の公家衆で宮廷の儀式作法を習うため摂家に入出入りする者を家礼と呼んだとあるが、やはりその家に依頼し、礼をつくしたからであろう。《吾妻鏡》1180年(治承4)の記事に《源氏の人々は家礼とするのも憚るべきなのに服仕の家人として取り扱うのは以ての外のことだ》とある。家礼と服仕の家人を対比させて用いていることから、はじめ家礼は*家人よりも服属度のゆるい従者を意味したものか。のちには家人の語義の拡大により混用されるようになったと思われる。家来の用語は《太平記》にみえ、ほかに《家頼》と記すこともあった。後には家来の語が広く用いられるようになった。

五味 克夫

ケラインコ pygmy parrot

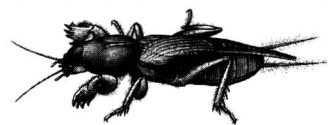
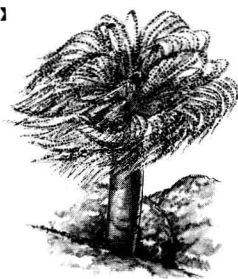
オウム目オウム科ケラインコ亜科 Micropsittinae に属するインコ類の総称。オウム科の中でもっとも体が小さく、全長8~10cm しかない。尾羽は短い角尾で、羽軸がキツツキ類のようにかたく、樹幹や大枝をよじのぼる習性がある。ケラインコの名も習性がキツツキに似ていることによる。熱帯降雨林に小さな群れをつくってすみ、樹皮の間から昆虫類をとったり、樹上のシロアリ類の巣から成虫や幼虫をくちばしでほじり出して食べる。また、果実や菌類も好む。繁殖期には、シロアリ類の蟻塚に巣穴を掘って営巣する。ニューギニアとその周辺の島に6種が分布し、ニューギニアにはアカガシラケラインコ *Micropsitta bruijnii*、ギガシラケラインコ(ムネアカケラインコ) *M. keiensis*、キバラケラインコ *M. geelvinkiana* の3種、ビスマルク諸島にアオボウシケラインコ *M. pusio*、アドミラルティ諸島にシマハラケラインコ *M. meeki*、ソロモン諸島にはソロモンケラインコ *M. finschii* が生息する。

斎藤 隆史

ゲラゲッツァ guelaguetza

メキシコのオアハカ州の中央平野部に住む*サポテコ族起源の言葉で、互恵の交換を意味する。農作業その他の際の労働交換に加えて、儀礼面では、贈答の義務を意味する。マヨルドミーア(祭りの主催)やファンダンゴ(結婚式)のような重要な祝いごとにはゲラゲッツァの原理が働き、村人は相互に助け合って資金を募ることができ、サポテコ族の家族はこの貸し借りを入念に記録して、清算は子の代にまで受け継がれる。この原義から転じて、毎年7月の最後の週の月曜日にオアハカ市内のセロ・デル・フォルティンで開かれ

【ケヤリ(環形動物)】



【ケラ(昆虫)】

るインディオの大祭をも意味する。この祭りにはオアハカのインディオ集団の代表が集まり、芸能を披露する。

黒田 悦子

ゲラーシモフ

Innokentii Petrovich Gerasimov 1905-ソ連邦の地理学者。土壌地理学、地形学、第四紀、環境問題等の指導的研究者として著名。1953年よりソビエト連邦科学アカデミー正会員。1929年レニングラード大学卒業、ソ連科学アカデミー地理学研究室地形部門主任、モスクワ大学の土壌学、外国自然地理学講座主任等を歴任。また、ソ連邦地理学会会長、国際地理学連合(IGU)副会長(1960-68)、76年にはIGUモスクワ大会の組織委員長を務め、同年IGU最初の名誉会員に選ばれた。ドクチャエフ金メダル等を受賞。イギリス王立地理学会、日本地理学会ほか多くの外国学会の名誉会員。おもな研究業績は、ソ連全土の土壌図および世界土壌図の作成、著書は《ソ連および隣接国の気候と土壌相》(1933)、《ソ連の地理学と自然改造の諸問題》(1961)等多数。A. グラゾーフスカヤとの共著《土壌学原論と土壌地理学》(1960)が邦訳されている。

西川 治

ゲラー・ジュンケイロ Abílio Manuel de Guerra Junqueiro 1850-1923

ポルトガルの詩人。コインブラ大学卒業後官吏の道をえらんだ後に代議士、ベルン駐在公使となるが、晩年は病気のため公職を去る。少年の頃から詩才を示していた彼は、詩集《ドン・ファン之死》(1874)、《老いたるエテルノ神父》(1885)によってポルトガル最大の詩人の一人、当代一流の詩人と言われた。彼の詩には幼いときに受けた宗教教育の影響が陰に認められ、《老いたるエテルノ神父》には聖職者に対する鋭い風刺がこめられている。現在ではこの詩人の作品に対する技術と内容の両面からかなり強い否定的な批判がなされており、文学的価値は認めながらも、彼が生きていた頃の評価は過大評価であるとされている。ほかに《純朴なる人びと》(1892)、《パンの祈り》(1902)、《光に祈る》(1903)など。

池上 岑夫

ゲラダヒヒ

gelada baboon: *Theropithecus gelada*

エチオピア高原に生息する霊長目オナガザル科の旧世界ザル。手足が黒いほかは全身褐色の毛で覆われており、雄の肩には長いマント状の毛が垂れている。顔は黒褐色で、まぶたの部分だけが白い。雄の胸には三角形の毛のない赤い部分があり、雌の胸にはいぼ状に突出した肉のかたまりがネックレス状に並んでいる。発情するとこれらの裸出した部分が紅潮する。頭胴長は雄で約70cm、雌で約55cm。尾長は頭胴長の約70%。体重は雄で20kg、雌で約14kgと性差が大きい。全体的にヒヒに似た形態の特徴を示すが、歯、鼻部、しりだこなどの形態の違いから、ゲラダヒヒ属 *Theropithecus* としてヒヒ属 *Papio* とは区別される。

標高2500～4000mの高地草原にすむ地上生活者で、イネ科、ユリ科などの植物の根もとや球根をおもな食物としている。夜はヒョウなどの捕食獣を避けて断崖にかたまって眠る。繁殖単位である1頭の雄、数頭の雌、子ども、赤ん坊のグループのほか、雄ばかりのグループや単独行動をする雄などが認められ、これらがいくつも集まって25～400頭のハード herd と呼ばれる遊動集団を形成する。しかし、ハードのメンバーが一時的にハードから離れて遊動することもあるため、ハードのサイズは流動的に変化する。また、隣接する二、三のハードが集まってさらに大きな集団を形成することもある。

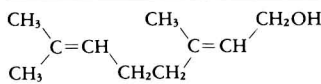
古市 剛史

ケラチン keratin

硬タンパク質の一種。動物がその生体を外界から隔離するために形成した保護外被、すなわち皮膚角質層、毛髪、羊毛、羽毛、角、つめ、うろこ、くちばしなどを形成している類似タンパク質の総称。角質ともいう。丈夫で弾性に富み、化学的に安定である。水をはじめとするすべての中性溶媒に不溶。タンパク分解酵素の作用も受けにくい。アミノ酸組成はシステインが多く、16%にも達するものがある。ペプチド鎖はその大部分が α 構造をとり、さらにそのペプチド鎖が集まり、互いに左巻きにねじり合って超らせんを形成していると考えられている。ペプチド鎖は多くのジスルフィド結合(S-S結合)で網目状に結ばれているためケラチン繊維は弾性に富む。羊毛の例では2倍長に引き伸ばしても元通りに復元する。羊毛ケラチンは5.15Åの周期構造をもつ α ケラチンであるが、伸長すると6.64Åの β ケラチンに変化し、この転移は可逆的である。なお、パーマメントウェーブはチオグリコール酸のような還元剤でポリペプチド鎖間のS-S結合を切断しておいて毛髪を望む形に整え、ついで過酸化水素液のような酸化剤によって再び結合を形成させて髪を半永久的に固定するものである。

宝谷 絢一

ゲラニオール geraniol



パルマローザ油、シトロネラ油、ラベンダー油、レモングラス油、ゼラニウム油などの多くの精油に含まれる、バラのような甘いおだやかな香気をもつ無色の液体。重要な香料の一つである。化学式 $\text{C}_{10}\text{H}_{18}\text{O}$ の非環式モノテルペンアルコール。2の位置の二重結合がトランス形で、シス形のネロールとは異性体である。沸点229.7℃、比重 $d_4^{20}=0.8812$ 、屈折率 $n_D^{20}=1.4784$ 、引火点101℃。水にわずかに溶け、アルコール、グリコールには可溶。空気中で酸化により淡黄色に着色するので、密栓をして保存する。上記の精油から分留によってゲラニオール留分をとり、これに水酸化ナトリウム溶液を加え、共存するシトロネラルを重合除去し、さらに蒸留すると得られる。またシトラールの接触還元法、テレピン油を分留して得た β -ピネンからミルセンを経ての合成法もある。

バラ系調合香料として利用され、化粧品、セッケン、芳香剤に広く用いられる。また食品香料として、アップル、レモン、シナモン、ストロベリー等のフレーバー成分ともされる。

内田 安三

げらまれっとう 慶良間列島

沖縄県の沖縄島(本島)、那覇市の西方20～40kmの海上にある大小30余の島嶼群。慶良間諸島ともいう。列島の中央を南北に走る慶良間海峡を境に行政上は二分される。東部は、渡嘉敷島を主島として前島、儀志布島、黒島など大小10余の無人島を含み、前慶良間と呼ばれ、渡嘉敷村に属する。面積19km²、人口830(1980)。西部は、座間味島を主島として阿嘉島、屋嘉比島、慶留間島、久場島など20余島を含み、後慶良間と呼ばれ、座間味村に属する。面積17km²、人口761(1980)。島はいずれも山がちな地形を示す。帆船時代には航海業に従事する人が多かった。1901年に沖縄で初めて座間味へカツオ漁業が導入され、第2次大戦前、両村では多くの人々が南洋諸島に進出してカツオ漁に従事した。第2次大戦前は那覇市への新炭供給地であり、また屋嘉比、久場の2島では銅を産した。現在の生業は半農半漁である。45年3月26日、座間味の各島へアメリカ軍が上陸、翌27日には渡嘉敷島へ上陸して、史上例をみない住民の集団自決という悲惨な歴史をもつ。沖縄海岸国定公園に含まれる両村へ那覇泊港から村営の定期船便があり、観光地化が進んでいる。また屋嘉比、慶留間、阿嘉の3島には天然記念物のケラマジカが生息する。

堂前 亮平

ケラメイコス Kerameikos

古代ギリシアの陶工区。アテナイのアゴラの玄関ディピュロン(二重門)の入口近くにあり、往時は陶工が軒を連ねていた地区。これと隣接してその外側に古代墓地がある。近代以降ヨーロッパでは陶芸・

窯業を総称してセラミック(英語=ceramic、ドイツ語=Keramik)と呼んでいるが、その語源はこのケラメイコスもしくはケラミコス keramikos に由来する。ケラメイコスの墓地は前12世紀のミュケナイ時代末期から古典時代のほぼ1000年にわたり、とくに前6世紀以降はアテナイの公共の墓地として使用された。1871年この墓地から前8世紀に比定される典型的な幾何学様式の陶器が多数発見され、以後の発掘を通じて、ミュケナイ時代末期の同心円や同心半円の原因幾何学様式の陶器から古典期にかけてのアテナイの窯業の発展を後づける貴重な遺品多数が出土した。これらは墓地の南の丘に建つケラメイコス美術館に収蔵されている。

前田 正明

ケーラ[州] Kerala

インド共和国南西端の州。マラバル地方ともいう。面積3万9000km²。人口2540万人、人口密度653人/km²(1981)はインド各州中最高。州都はトリバンドラム。地形は西から、①海岸砂丘列、②潟湖・後背湿地、③沖積平野、④ラテライト化した低い丘陵、⑤西ガーツ山脈の急峻な西斜面と並ぶ。5月末から5ヵ月間にわたって南西モンスーンが吹きつけ、3000mm以上の年降水量をもたらす。そのため⑤は熱帯常緑樹に覆われている。主作物は①ではココヤシ、③では米、④ではタピオカ、カシューナッツ、⑤ではゴム、コショウ、コーヒーと変化する。

ケーラはインドの周縁の位置にあるため、歴史上外来王朝に服属することは少なかった。インド洋をめぐる海上交通の要衝を占めるうえに、香料類、象牙、バクダン・シタンなどの唐木類を特産するので、ここに成立した地方王国は東西交渉史上重要な役割を果たしてきた。アショカ王碑文にある「チェーラ朝は前数世紀から東西両世界と交易していたし、当時の港市ムージリス Muziris の名は古代ギリシア・ローマにも知られていた。4世紀には早くもキリスト教が伝来したともいわれる。下つては13世紀にはマルコ・ポーロが、14世紀にはイブン・バットゥータが、15世紀には鄭和とバスコ・ダ・ガマが来航した。現在の州は1956年に、旧トラパンコール、コーチン両藩王国ほかのマラーラム語(州公用語)圏をもとに成立した。歴史を反映して、キリスト教徒とイスラム教徒がおの人口の約20%を占める。識字率も約60%とインド第1位であるが、貧しい。海岸の砂にはチタン鉄鉱、ジルコン、シリマナイトなどの希少鉱物資源を多く含むが未開発である。コーチンの造船業などを除けば、工業は伝統的な農村手工業、ココヤシロブ製造、カシューナッツ、コーヒー加工など農業関連工業がほとんどである。1957年の総選挙では非暴力的手段による世界最初の共産党州政府ができたが、2年間で交代した。

広地 利明

グエラルド(クレモナ) Gherardo

1114?-87

12世紀にギリシアやアラビアの科学文献を、アラビア語からラテン訳した最大の

翻訳者。ラテン名ゲラルドゥス Gerardus。スペイン語読みでヘラルドともいう。イタリアのクレモナ Cremona に生まれたが、アラビアの学術を求めて、スペインのトレドに赴き、そこで没するまで、アリストテレス、ユークリッド、アルキメデス、ペルゲのアポロニオス、プトレマイオス、ガレノス、フワーズミー、ファラービー、イブン・シーナー、イブン・アルハイサムなどの第一級の著作を含む87種にのぼる文献を翻訳した。この空前絶後ともいうべき翻訳活動によって、西欧世界はそれまで未知にとどまっていた優れたギリシア、アラビアの科学知識に接することができるようになったのである。

▶▶ 中世科学 伊東 俊太郎

ケラウック Jack Kerouac 1922-69

アメリカの作家。マサチューセッツ州に生まれ、コロンビア大学に学んだが、在学中に詩人 A. ギンズバーグなどと知り合い、やがてビート世代の文学の代表的な小説家として注目されるようになった。第2次大戦後の非人間的な管理社会に生理的に反発し、自然発生的・感覚的な秩序のない文体を意識的に用いて、瞬間的な自我の充足と宗教的な意味での悟りをつかみ、至福への道を探ろうとした。代表作《放浪》(1957)は、アメリカ中を気のおもむくままにドライブしてまわる2人の男を主人公にしたビカレスク風の小説で、物質文明に背を向けて東洋哲学に傾倒していく若者を描いた《ゲルマ行者たち》(1958)と対をなすものである。ほかに、サンフランシスコのビート世代の風俗と生態を描いた《地下街の人々》(1958)、詩集《メキシコ・シティ・ブルース》(1959)など多くの作品を発表し、アメリカ文学に新しい分野をひらくものと期待されたが、その期待に十分にこたえられないままに急逝した。▶▶ ビート・ジェネレーション

大橋 吉之輔

グラン Maurice de Guérin 1810-39

フランスの詩人。南フランスの出身で、初め神学を学び、一時ラムネーの宗教改革運動に加わったこともある。肺患のために故郷で夭折、作品はすべて死後刊行された。*G. サンドにより《両世界評論》誌に発表された未完の散文詩《サントール Le Centaure》(1840)は、年老いたケンタウロス(半人半馬神)が若き日を回想する形式で、宇宙のリズムに身を任せようとする汎神論的傾向と自己の内部に閉じこもろうとする孤独な性向とに引き裂かれる作者自身の内面のドラマをうたいあげた代表作である。ほかに散文詩《バックス神祭厄》がある。また姉ウージェニー Eugénie de G. の《日記》(1862)は内省的な観察と弟への愛情にあふれた手記として文学的に評価されている。 大浜 甫

グレイ grey-headed lapwing:

Microsarcops cinereus

長い脚をもつ大型のチドリ目チドリ科の鳥。鳴声からその名がついたといわれる。モンゴル、中国東北部、日本で繁殖し、冬には中国南部、東南アジア、フィリピンなどに渡るものもある。日本では本州

で繁殖し、本州中部以南で越冬する。水田、河原、草原などにすむ。全長約35.5 cm。くちばしは短くて黄色、先が黒い。頭部、胸は暗灰青色、体の上面は灰褐色。尾は白くて先に黒斑がある。翼の先は黒く、基半部は白色と灰褐色であるので飛ぶと目立つ。腹部は白く、胸部との境に黒帯がある。脚は長くて黄色。東北地方、中部地方、近畿地方で繁殖し、本州中部以南で越冬する。草原、水田、干拓地、川岸などにすみ、秋冬には数十羽の群れをつくることもある。餌をとっては少し歩き、また餌をとっては歩くという動作をゆっくりと繰り返している。ケリッ、ケリッという鋭い声を発する。草原の地上、水田中の少し高くなったところ、あぜなどに枯草を敷いて皿形の巣をつくり、1腹4個の卵を産む。産卵期は3~5月。雌雄とも抱卵し、抱卵日数は27~30日。雛は綿羽に覆われ、かえってまもなく巣を離れる。親鳥は巣の近くや雛に人、イヌ、カラスなどが近づくと、上空から鳴きながら急降下して威嚇する。また、翼を垂らし、尾を広げて擬傷動作を行う。

高野 伸二

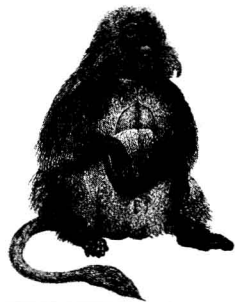
ケリー Florence Kelley 1859-1932

アメリカの社会改革家。社会主義運動を経て、ジェーン・アダムズのハル・ハウスでセツルメント活動に身を投じ、その後1899-1932年、全国消費者同盟書記長として消費者運動を指導した。特に若年労働の廃止、女性労働者保護などの社会立法のために尽力したが、人種差別撤廃、婦人参政権、世界平和などの運動においても活躍。完全な男女の平等を保障する平等権修正(ERA)には、女性労働者の保護を損なうとして反対した。 有賀 夏紀

ケリー Grace Kelly 1928-82

アメリカの映画女優。モナコ王妃。ペンシルベニア州フィラデルフィア生れ。《クール・ビューティー》といわれた清楚な美貌で1950年代のハリウッドを代表するブロンドの美人女優として一世をふうびした。とくに《ブロンドには女の神秘がある》というアルフレッド・ヒッチコック監督の理想的ヒロインとして《ダイヤルMを廻せ!》《裏窓》(ともに1954)、《泥棒成金》(1955)で、ヒッチコックが《セクシュアル・エレガンス》と呼び、また《雪をかむった噴火山》にたとえた、内に秘めたセックスアピールを発揮した。モデル、舞台女優をへて1951年映画界に入る。フレッド・ジンネマン監督、ゲーリー・クーパー主演の《真昼の決闘》(1952)、ジョン・フォード監督、クラーク・ゲーブル主演の《モガンボ》(1953)、アカデミー主演女優賞を受賞したジョージ・シートン監督《喝采》(1954)、サイレント時代の大家優りリアン・ギッシュのヒロイン像をリメイクした《白鳥》(1956)、トーキー時代の最初の大女優キャサリン・ヘプバーン主演のロマンチック・コメディ《フィラデルフィア物語》(1940)のリメイク《上流社会》(1956)など、11本の映画に出演したが、人気の絶頂のまま、56年、モナコ公国のレーニエ大公と結婚して引退。

【ゲラダヒト】
雄。



《現代のシンデレラ物語》のヒロインになった。その後、ヒッチコックは《鳥》(1963)と《マニー》(1964)に彼女の出演を要請したが、実現しなかった。82年、自動車事故で死亡。 宇田川 幸洋

ケリー Ned Kelly 1855-80

19世紀のオーストラリアに続出したブッシュレンジャー(追剥)の一人。本名はエドワード Edward。ネッドはエドワードの愛称。アイルランド人流刑囚の息子だったため最初から色眼鏡で見られていたうえ、オーストラリア開拓史特有の大牧場主(スクオッター)と貧しい小農場主(セクター)、移動労働者との対立にまきこまれ、家族ともども家畜泥棒として頻繁に逮捕された。1878年母親まで逮捕されるに及んでビクトリア州北東のウォンバット山中にこもり、いわゆる《ケリー・ギャング》を結成、警官殺害、銀行襲撃など一連の犯行を重ねたが、80年6月、警官隊と銃撃戦の末、負傷して逮捕され、11月メルボルンで絞首刑にされた。対英独立戦争を戦わなかったオーストラリアでは、大英帝国への反抗の象徴のひとつに見たてられ、多くの小説、戯曲、映画に描かれてきた民衆ヒーローである。

越智 道雄

ケーリー Arthur Cayley 1821-95

イギリスの数学者。貿易商の家に生まれ、8歳までロシアで過ごした。ケンブリッジ大学トリニティ・カレッジに学び、1842年に数学の学位試験を首席で合格、その後3年間は同カレッジの助手として数学の研究に専念したが、その後、法律を学んで49年には弁護士となった。この仕事を63年のケンブリッジ大学教授就任まで続けたが、この間も数学の研究を行った。彼は生涯に約1000編の論文を書いたが、約300編はこの期間中になされたものである。業績は代数的不変式論、行列の理論、射影幾何学、 n 次元の幾何学などにわたり、これらの理論の体系化に大きな貢献をした。なかでも行列(マトリックス)の理論は彼の独創であり、ユークリッド幾何も非ユークリッド幾何も射影幾何の特別の場合として説明できることを示したのも彼が初めてである。なお、群の抽象的な扱いも彼が先鞭をつけたものであり(1845)、また有名な四色問題も彼がその困難さをロンドン地理学会で指摘した(1879)のが発端である。 中岡 徳

ケーリー George Cayley 1773-1857

イギリスの科学者、技術者。レオナルド・ダ・ビンチ以後飛行を科学的に考察した最初の人物といわれる。彼はまずたこに作用する空気力を揚力と抗力に分解し、これらがたこ糸による張力とたこの重量とつり合うことを正しく理解していた。彼はさらに進んでグライダーおよび飛行機を考え、その安定原則として、尾翼をつけ、主翼に上反角をもたせる必要があることにも気づいており、模型を作った実験も行った。

佐賀 亦男

げり 下痢 diarrhea

小腸、大腸における水と電解質の吸収不良または分泌亢進により糞便の腸内通過が早く、水分の多い液状便を頻繁に排便する状態をいう。したがって便通の回数増加のみで直ちに下痢とはいえない。

下痢は発生要因によって、次のように分類される。まず、腸管内に異常に水分が貯留され、その水分が消化管壁から消化管内へ押し出される場合(分泌性下痢)と引き出される場合(浸透圧性下痢)とがある。

分泌性下痢とは、消化管の炎症充血などによって消化管からの分泌が促進され、腸管からの水分吸収能力を上回った場合である。壁内の常水圧が上昇し、滲出性の病変を起こした場合(腸炎)、種々の陰イオンの過剰分泌によって、これに付随して水分が分泌される場合(コレラ)、脾臓のランゲルハンス島に生じた腫瘍が消化管ホルモンVIP(vasoactive intestinal polypeptide)を分泌し、腸液分泌を促進させる場合などがある。一方、浸透圧性下痢とは、腸管内の浸透圧を上昇させるような物質が腸管内に存在し、それを希釈するような形で壁から水分が引き出されるもので、塩類下剤などがその代表的なものである。このほか乳糖不耐症(牛乳を飲むと下痢をする例)の下痢もこれに属するものと考えられる。この種の下痢は腸内容が排出されれば下痢は消失する。

次に腸管運動機能異常による下痢がある(過敏性大腸症候群など)。これには、腸管の運動が亢進し腸内容の通過が早く水分が十分吸収されないために腸内水分が増加して起こるものや、腸運動が低下し腸内容が鬱滞し異常発酵によって腸管が刺激されて下痢を起こすものがある(蓄便性下痢)。さらに水分の吸収が十分に行われないために下痢が発生する場合があり、腸の広範切除や絨毛嚢萎縮により水吸収障害をひき起こすもの(セリアック症候群)などでみられる。これら下痢の分類については、下痢の持続期間の違いから急性下痢と慢性下痢とに分けることができる。この分類法は、単に持続期間の違いだけではなく、その原因をなしている疾患の性質の違いをも反映しているので、いかなる疾患かを知るうえで有用である。

【急性下痢】 腸管の感染症として、細菌性(細菌性赤痢、腸チフス、パラチフス、コレ

ラ)、ウイルス性(伝染性下痢症、ポリオウイルス、アデノウイルス、エコーウイルス)、原虫性(アメーバ赤痢)、寄生虫性(急性の日本住血吸虫症、鉤虫症、回虫症)などがあげられる。次いで中毒であるが、食品中毒として細菌性(サルモネラ、腸炎ビブリオ、病原大腸菌)、毒素性(ブドウ球菌、ボツリヌス菌、毒キノコ、アルコール等の食品毒物)があり、そのほか薬物下剤(マグネシウム剤)、重金属中毒(水銀剤、鉛、ヒ素剤)があげられる。そのほか、食物、飲料水などの過食過飲、または不消化物の摂取による機械的刺激、含有する酸あるいは発生するガスによる腸蠕動亢進にもとづく消化不良性下痢も多い。抗生物質使用に起因する下痢も急性の下痢をひき起こす。これは、抗生物質投与により正常腸内細菌叢が破壊され、耐性菌の異常増殖により産生される毒素によりひき起こされるものと考えられている。アレルギー性下痢として、一定の食品摂取後下痢をひき起こす特異物質のものがある。そのほか、虫垂炎、傍直腸膿瘍に起因する下痢、腸間膜動脈血栓症、虚血性大腸炎、腸重積症などによる下痢もある。またストレスなどによる機能的障害にもとづく寒冷性下痢、神経性下痢があるが、多くは慢性的にたびたび繰り返されることが多い。

【慢性下痢】*潰瘍性大腸炎、*クローン病、結核性腸炎、慢性腸感染症(細菌性赤痢、ウイルス性腸炎、アメーバ赤痢、鉤虫症、日本住血吸虫症、条虫症など)、腹部手術後遺症(胃切除、腹部迷走神経切断術、腸切除、消化管吻合術、腸癒着)、腫瘍(大腸癌、大腸ポリポース)、放射線大腸炎、*吸収不良症候群、栄養欠乏状態(ビタミン欠乏症、ペラグラ)、結腸性子宮内膜症、脾臓疾患(慢性脾炎、非B細胞性脾臓腫瘍)、内分泌・代謝異常(アジソン病、甲状腺機能亢進症、尿毒症、糖尿病)などがあげられる。

こうした慢性下痢のなかで最も頻度の高いものは*過敏性大腸症候群である。大腸の緊張、運動、分泌亢進などの機能異常により下痢、腹痛、下痢便秘交替、粘液便などを長期にわたってひき起こすもので、下痢を主訴とするタイプ(神経性下痢)が多い。慢性の経過をとるにもかかわらず、一般状態が悪化することなく、とくに食事の摂取後や冷たい飲料水を飲んだ後に下痢がみられることが多い。下痢は心理的な緊張や動揺に一致してあらわれ、種々の自律神経系の失調症状(倦怠感、肩こり、頭重、不眠)を伴っている。慢性下痢のうち、その原因が胃の機能的・器質的障害にもとづくと考えられるものに胃性下痢がある。胃液酸度の減少によりタンパク質の消化が不十分となり腐敗性下痢の原因となると考えられている。しかし老人に多い萎縮性胃炎、無酸症患者が必ずしも下痢を示していない事実から、胃性下痢の概念はややあいまいなものと考えられる。脾液、胆汁、消化管ホルモン分泌の異常、それに伴う運動機能の低下等、胃以外の要因がさらに合併したときにみられるものと考えられる。

【診断と治療】 下痢の性状で大量の水様

便の場合は、小腸または上部大腸の疾患で分泌性下痢のことが多いが、少量ずつ頻繁に排便がある場合は、直腸またはS状結腸など下部大腸に病変がある場合が多い。直腸に強度な炎症(赤痢等)がある際に疼痛を伴った便意が頻繁に起こり、しかも肛門筋肉の痙攣により排出が困難になることがある。これをくしぶり、裏急後重といっている。急性の下痢で発熱を伴うものは細菌感染が考えられる。細菌性下痢では、発熱、頻繁な粘液便、腹痛などが特徴である。また細菌性食中毒では、発熱、下痢、腹痛、悪心、嘔吐を訴え、血便を伴うこともある。これらは、食事と発症との時間的關係、集団発生の有無、糞便および食品からの起炎菌の検出が必要である。糞便検査は、細菌培養、寄生虫検査、潜血反応の検査、糞便中の脂肪滴検査等、下痢の原因を検索するうえでたいせつである。

慢性下痢の原因として最も多いものは機能性下痢(過敏性大腸症候群)であるが、この疾患と大腸癌、潰瘍性大腸炎、クローン病、腸結核などとの鑑別をするためには逆行性大腸レントゲン検査、大腸内視鏡検査が必要で、疑わしい病変があれば内視鏡で組織を採取する(生検)ことによって診断が下される。血液検査で低タンパク血症、血清コレステロールの低下がみられ、栄養状態の低下が考えられる場合は、上記の検査に加えて*消化吸収試験などが行われる。また脾臓疾患が疑われる場合は脾臓外分泌検査、逆行性脾管造影、超音波検査、CT検査などが行われ、また上部消化管病変の有無に関してはレントゲン検査、内視鏡検査によって検索される。これらの検査によって器質的疾患の有無を診断することができる。

治療としては、脱水、電解質失調があれば輸液を行い、栄養障害があれば高カロリー静脈栄養を行い、是正する必要がある。心身の安静、食事療法(急性期には絶食し、症状が緩和した後に繊維の多いもの、脂肪食品、香辛料、冷たい飲料、アルコールを避け、栄養価に富みビタミンの豊富な消化しやすいものを与える)を行う。薬物療法としては、止瀉薬のほか、制酸剤、乳酸菌製剤(商品名ビオフェルミン)、消化酵素剤、抗生物質、精神安定剤などが使用される。このほか、病因の明確なものにはそれぞれの治療剤として、感染症には抗生物質、寄生虫には駆虫薬、乳糖不耐症にはラクターゼ製剤、潰瘍性大腸炎にはサラゾピリン、プレドニンなどが用いられる。以上のような内科的治療で効果のない劇症型の潰瘍性大腸炎、クローン病、腫瘍に対しては、外科的治療が行われる。また過敏性大腸症候群の場合は、薬物療法以外に心理療法(面接による疾患の理解と自律訓練法)も行われる。

福富 久之

【止瀉薬 antidiarrhoics】 下痢を止める薬物をいい、俗に<下痢止め>ともいう。下痢が腸内の毒物や刺激物によって起きているときには、むしろ*下痢を用いて排出を促進させるほうがよい。しかし下痢が非常に強い場合は、水分や無機質の

損失によって痙攣を起こしたり、中枢神経の興奮を起こして危険である。また持続性の慢性下痢は栄養障害を起こす。したがって、このような下痢については、止瀉薬を用いて止める必要がある。止瀉薬には次のようなものがある。

①腸運動抑制薬 アヘンアルカロイド、副交感神経遮断薬、交感神経刺激性整腸薬などがある。アヘンアルカロイドのうち、モルヒネは消化管の緊張を高めて、腸内容物が肛門方向へ移動するのを抑えるとともに、分泌物を減少させる。アヘンは、モルヒネのほか平滑筋弛緩作用をもつパパベリンを含むので強い止瀉作用があり、ゴム質や粘液などの成分が腸管吸収を抑制するため作用時間も長い。アヘン末、アヘンチンキとして用いる。副交感神経遮断薬としては、アトロピン製剤が用いられる。消化管平滑筋の弛緩作用と分泌抑制作用により下痢を止める。ロートエキス、ペラドンナエキスなどがある。交感神経刺激性整腸薬にはゲンノショウコなどがある。

②収斂²薬 腸粘膜の炎症部での血管収縮、タンパク凝固作用によって被膜を形成し、腸分泌液の抑制と粘膜の感受性を低下させ、蠕動運動を抑制する。タンニン酸、次没食子酸ビスマス、次硝酸ビスマスなどがある。

③粘薬 粘膜や潰瘍部の表面に吸着され薄い膜をつくり、刺激から消化管を保護して運動を抑制される。トラガント、アラビアゴムなどがある。

④吸着薬 腸管内に発生した毒素やガス、異常分解産物、粘液などを吸着し、排出させることによって、刺激を緩和する。薬用炭(活性炭)、ケイ酸マグネシウムなどがある。▶▶乳児下痢症

福富 久之+高柳 一成

ゲーリー Gary

アメリカ合衆国インディアナ州北西部の工業都市。人口15万1953(1980)。もともとはミシガン湖南岸の砂丘と湿地帯であったが、1905年に、USスティール社が6000エーカー(約2500ha)の土地を購入して、製鉄所とそれに付属する工場町をつくった。ゲーリーという名は同社の社長であったE. H. ゲーリーにちなんだもの。シカゴの南東約40kmに位置し、原料、製品の運送にも便利であるという地の利を買われて建設された町であるが、工場の発展にともなって人口も増大し、インディアナ州第2、20世紀にアメリカで生まれた最大の都市となった。工場で働く黒人が人口の半数以上を占め、1967年には黒人市長を選んだ。岡田 泰男

ゲーリー Elbert Henry Gary

1846-1927

アメリカ最大の鉄鋼企業・USスティール社の第2代社長。イリノイ州に生まれ、大学で法律を修めたのち、イリノイ州の郡判事やシカゴ弁護士会会長などを務め、1890年代にはイリノイ法曹界の中心的存在となる。法律の専門家としてフェデラル製鋼社などの設立に関与、98年にはその社長に就任し、以後は実業家として

活躍する。大金融家モルガンJ. P. Morganの右腕として、一大鉄鋼トラストであるUSスティールの設立(1901)に尽力し、初代社長シュワップの後を受け、1903年から27年まで社長を務めた。この間彼は、鉄鋼価格固定化のためピッツバーグ・ブライズ制を定め、〈ゲーリーの晩餐会〉と呼ばれる不定期の社長会でその徹底をはかった。こうした努力によりUSスティールは価格先導者としての地位を固めたが、やがて、独占の力や価格戦略に固執するあまり、需要構造や技術の変化への対応に遅れをとり、産業界における相対的地位を低下させていった。なお、USスティールの大工場がある鉄鋼業都市・ゲーリーは彼の名にちなむ。日高 千景

ゲリウス Aulus Gellius 123?-169

ローマの随筆家。20巻の《アッティカの夜々》と題する随筆の作者。同書は第8巻以外は現存する。青年時代ローマで法律、修辞学を修めた後、哲学を学ぶためアテナイへ行き、著名な弁論家ヘロデス・アッティクスと親交を結んだ。彼の師友にはフロントロと修辞学者ファウリヌスなどがいる。ローマに帰ってのち司法官となった。《アッティカの夜々》の内容は、歴史、哲学、法律、文学など百般に及ぶ。275名のギリシア、ローマの作家からの引用を含み、この書によってのみ知りうる作家も多く、貴重な文献。G. B. ショーの《アンドロクリーズとライオン》もこの書物から題材を得ている。高橋 通男

ゲーリケ Otto von Guericke 1602-86

ドイツの物理学者、政治家。マクデブルクの名門の出身。ライプチヒ、ヘルムシュタット、イエーナ、ライデンの大学で法律、数学、築城術などを学ぶ。1626年帰郷とともに市参事会員となり、46年から30年間市長を務め、三十年戦争で破壊された市の復興に尽力し、市の自治権を守るために諸侯の間を奔走した。この職務の合間に彼は真空の存在を実証するため真空ポンプを製作して諸実験を行ったが、なかでも大気圧の強さを示したマクデブルクの半球実験(1657)は著名である。彼の真空に関する実験は諸国に伝えられてR. ボイルやC. ホイヘンズの気体力学研究の契機となった。このほか、空気比重量測定、水気圧計の製作、真空中での生物・火・音の実験などを試み、また、硫黄球を回転摩擦して静電気の先駆的な実験を行った。内田 正夫

ゲーリック Henry Louis Gehrig

1903-41

アメリカの大リーグ野球選手。愛称ルー。ニューヨークに生まれ、1923年、ニューヨーク・ヤンキースに入団。一塁手、4番打者として活躍、3番打者ベーブ・ルースとともに、ヤンキースの人気を高めた。39年まで17シーズンの選手生活で、打率3割4分1厘、連続試合出場数2130回、三冠王(1934)などの記録を残した。31年と34年に全米選抜チームに加わって来日した。川本 信正

ゲーリック語 Gaelic

ゲール語あるいはゴイデリック語 Goidelic

ともいう。・ケルト語派の一分枝で、・アイルランド語のほかスコットランド・ゲリック語とマン島語すなわち・マンクス語が含まれる。このうち後者の二つはアイルランド語からの派生であり、10世紀までは3者ほぼ斉一であった。したがってゲリック語はアイルランド語によって代表される。古期アイルランド語(600-900)の名詞には男・女・中性、単・複・双数、五つの格があった(現代では中性、双数の形はなく、目だった格変化もない)。アクセントが語頭にあったため末尾が早く消失した。消失に先立ち後続の語頭音に特有の変化(緩音化と鼻音化)を起こしていた。動詞は文頭にくるが古くは文末にくることも珍しくなかった。代名詞は必ず前置詞と融合するか、動詞のなかにとりこまれた(これが独立の形で文中に現れるのは中期以降である)。これらの非インド・ヨーロッパ語的性格は基層語の影響によるものとも解せられ、インド・ヨーロッパ語学者の間にもその解釈をめぐる異説がある。土居 敏雄

ゲリとめ 下痢止め▶▶下痢

ケリー・ブルー・テリア[種]

Kerry blue terrier

原産地がイギリスの家庭犬。アイルランドの地犬で、山岳地帯のケリー Kerry 地方で古くから飼われていた。当時はヒツジやウシを追う牧畜犬で、小野獣や鳥の狩猟にも活躍したワーキング・テリア working terriers の一つである。被毛は多くのテリア種とは異なり、カールしていて柔らかく密で、幼若期はほとんど真っ黒であるが、12ヵ月齢ころからしだいに青みを帯び、青が光に美しく映えて見えるようになる。品種名はこの毛色と原産地名に由来する。知能がひじょうに高く、性質は温和で調教しやすい。体高43~49cm、体重15~18kgの中型種。一木 彦三

ゲリボルはんとう ゲリボル半島

Gelibolu

トルコ北西部、西のエーゲ海と東のマルマ海を分ける半島。英語ではガリポリ Gallipoli 半島とよばれる。サロス湾と・ダーダネルス海峡にのぞむ。長さ約100km、幅5.5~21km。第1次世界大戦でイスタンブール攻略を目指す英仏連合軍とオスマン・トルコ軍が戦闘を繰り広げた古戦場として有名。半島中央部に位置する中心都市ゲリボルは、オスマン帝国時代は海軍の基地であったが、現在は漁業の盛んな町で、人口5万0772(1980)。長場 敏

ゲリマンダー gerrymander

特定の党や候補者に有利のように選挙区の境界を決めることをいう。1812年、アメリカのマサチューセッツ州の知事ゲリー Elbridge Gerry は州議会の民主共和派と結んで州議会議員選挙の選挙区の境界線変更を行ったが、エセックス郡ではフェデラリスト派の優勢な11の町と民主共和派が圧倒的に優位な一つの町とを組み合わせて、民主共和派に有利な選挙区

平凡社大百科事典

をつくり出した。その形がサラマンダー salamander (火の中に住むという伝説上のトカゲ)に似ていたことから、一漫画家がこれを風刺してゲリマンダーとよんだ。この結果、選挙での総得票が多いにもかかわらず、フェデラリスト派は当選に結びつかない死票が多く惨敗を喫した。現在では多数党による不自然、不公平な選挙区構成は多くの州憲法において禁止されている。日本でも、1956年に鳩山一郎内閣が憲法改正をねらって衆議院議席確保をくもろみ、小選挙区法案を議会に提出したことがあるが、この小選挙区案の中にも奇妙な形をしたものがあり、ゲリマンダーをもじってハトマンダーと批判された。

川人 貞史

けりょう 家領

中世の権門勢家が歴代にわたって伝領した所領・荘園。〈家領〉の語は、平安初期に東寺に施入された伊勢国川合勅旨田が、もとく従四位下屋部王家領、宝亀四年皇太子伝家領であったとされるのが早い例であるが、奈良時代、766年(天平神護2)の越前国田券にく右大臣家田とあるのも同様な存在で、奈良末・平安初期に、王族・高官など尊貴の家が領する初期荘園を、〈何某家領〉と呼んだのがその始まりとみられる。当時の〈権貴の家〉は、家符・家牒など家の文書を発し、家印を用い、家の使いを下して家領を経営した。

摂関時代以降、王朝貴族の中に御堂流摂関家をはじめとする諸門流とその家格・家風が形成され、それぞれの始祖をもち、持仏堂を中心として結合した氏と家が分立していくが、それとともに氏長者・家長に相伝される諸家領が発達した。それらはく右大臣家領く左大將家領く侍従中納言家領く従二位家領など、本主の官職・位階をもってその家をあらわすことが多く、〈権門勢家領〉と総称され、その家政機関である政所がこれを統轄し、家司らを預所等の所職に補任して荘務を執行させた。家領の公験(公文書)は、家の重宝として当主みずから秘蔵し、家風を継ぐべき嫡子に譲渡された。現存する1123年(保安4)の中御門右大臣家領越後国小泉荘讓状案には、それが先祖大宮右大臣から家に伝領したこと、吉日をえらんで文書絵図とともに長男中將に譲ること、年貢は諸子平均に配分すること、預人はその勤否に随い定めること、国司が停廢したときは摂関家に上申すること、などが記されている。

鎌倉初期、1200年(正治2)吉田大納言家領地分状によると、家地・園地を除く同家の荘園13ヵ所は、家領型所領4ヵ所と俵禄型所領9ヵ所に分けられる。家領型所領のうち紀伊国平田荘と安房国郡房荘内広瀬郷の2ヵ所は、家風を継いだ一門の長者が累代管領する賀茂経蔵の所領であり、近江国湯次荘は最勝光院に寄進してこれを本所とする家領であった。また俵禄型所領は、本来の家領ではなく、

同家が院や摂関家に奉仕することによって俵禄的に給与され知行した荘園所職とみられる。

家領としてもっとも規模の大きい摂関家領は、中世に至って氏長者領と各摂家領に分離した。摂関・氏長者に直属し、その地位とともに伝領される氏長者領(殿下渡領)は(摂関家渡領)はじめ大和国佐保殿、備前国鹿田荘、越前国方上荘、河内国楠葉牧の4ヵ所であったが、のちに氏院(勸学院)領34ヵ所、法成寺領28ヵ所、同末寺19ヵ所、東北院領34ヵ所、平等院領18ヵ所、同末寺11ヵ所が(摂録渡荘)となり、摂関の地位に付随して各摂家の間を渡り動いた。一方、院政期に確立した摂関家領(冷泉宮領、京極殿領、堀河中宮領、高陽院領など)は近衛家領にひきつがれ、またそれとならんで皇嘉門院領を主体とする九条家領その他の摂家領が成立している。

戸田 芳実

ゲリラ guerrilla

独立した武装集団によって行われる不正規戦をいうが、現在ではそれに参加する者、あるいはその団体を指すことが多い。ナポレオンが1808年イベリア半島に出兵した時、スペインの農民たちは各地で抵抗し、彼らを5年にわたって半島に釘付けにした。この半島戦争はナポレオンのヨーロッパ征服を初めて中断させ、ひいてはナポレオン退位(1814)につながる予想外の政治的収穫をあげたことから、スペイン語で土匪5式の小戦闘を意味する〈ゲリリャ guerrilla〉という言葉が広く普及し、そうした待伏せ攻撃などの遊撃戦闘行為を行う者のこともゲリラと呼ぶようになった。フランス語で党派に属する者や仲間を指す〈パルチザン partisan〉もゲリラと同義語として使われることがある。正規軍の戦闘とは異なり、ゲリラには定まった戦線はなく正規軍の戦闘に補助的役割を果たすが、そのことによって勝利の条件をつくりだすことができる。

帝国主義の時代に入り、ゲリラの戦略・戦術はさらに発展する。ボーア戦争(1899-1902)でボーア人がゲリラ戦でイギリス軍に対抗したことは知られているが、第1次大戦からロシア革命にいたる時期には、アラブの民族主義ゲリラを組織したトルコ軍と対峙してイギリス軍を助けたT. E. ロレンス(《知恵の七柱》)にその経験を概括)および都市労働者やインテリゲンチヤを組織してプロレタリア革命におけるパルチザン戦法を生み出したレーニン(《プロレタリア革命の軍事綱領》)などが登場し、ゲリラの戦略・戦術が体系化される。こうした経験を経て、第2次大戦においては抗独レジスタンス運動(フランスにおける「マキなど」、抗日戦争などでゲリラ戦が広範に展開された。抗日戦で農民ゲリラを組織し「遊撃戦」の戦法を駆使した毛沢東は、《持久戦論》(1938)などでこれを体系化し、ゲリラは民衆とく水と魚の関係を保ち、しだいに敵を弱め、味方を強大にしていく持久戦であり、政治戦であるとしている。抗日戦から中国革命へと勝利を導いた毛沢東理論は、第2次大戦後、

アルジェリア戦争、ベトナム戦争、キューバ革命などに大きな影響を与え、以後の第三世界における解放運動に継承されて、農村から都市を包囲し、ゲリラを正規軍に発展させる戦略・戦術が定着してきている。こうして現代ではゲリラ戦が局地戦争の主要な戦闘形態となったといえよう。

なお国際法上、捕らえられたゲリラの取扱いが問題となる。第2次大戦中のレジスタンス運動の経験から、1949年の「捕虜の待遇に関するジュネーブ条約」は、義勇隊や民兵隊に要求されるのと同じ条件を満たす組織的抵抗運動団体の構成員に対しては捕虜待遇を認めた。しかし、その条件を満たすことはゲリラの場合には不可能に近いとみられ、現在の国際法の下では、捕らえられたゲリラは戦時犯罪として処罰を免れえない。今日では、条件を緩和してゲリラにも捕虜待遇を与えるべきだとする見解が強くなってきている。

八木沢 三夫

〔ゲリラ戦〕ゲリラ戦は大別して、優勢な軍事力によって占領された国民がある条件下で侵略者に反抗しその占領を放棄させることを目的として行う場合と、既存の体制の転覆、あるいは革命を目的として行う場合とがある。前者の例としてはナポレオン占領下のスペインや、ボーア戦争、インドネシア独立戦争等のゲリラ戦があり、後者の例としてはキューバ革命におけるゲリラ戦がある。ゲリラ戦は本質的には、組織と物的戦力において劣る弱者が強者に対して加える破壊であって、その終局目標は相手の要点に対する攻撃によって相対する強大な軍事力の有効性を損ない、物的戦力の組織的發揮を不能とし、ひいては敵軍の秩序を混乱させ、闘争意志を挫折させ、大軍勢力は存在してもその戦力を有効に發揮できないようにすることにある。

ゲリラ戦理論の代表は毛沢東であり、《遊撃戦論》等多くの論文の中で、ゲリラ戦の戦術原則ともいうべき「十六字戦法」——敵が攻撃してきたら退き、敵が駐留すれば擾乱し、敵が疲れば攻撃し、敵が退けば追撃する——を考案して、敵との相対関係における柔軟な対応とゲリラ自身の自己保全について強調している。毛沢東のほかにも、ベトナムのボー・グエン・ザップ(《人民の軍隊・人民の戦争》)、インドネシアのナスティオン、キューバのE. ゲバラ(《ゲリラ戦》)らがゲリラ戦理論をそれぞれ展開している。これらの理論ではゲリラ戦が本質的に弱者の戦法であるところからくヒット・アンド・アウェー)に象徴されるような作戦要領とならざるをえず、軍事的に限界があることを指摘している。このためゲリラ戦の効果について、〈ゲリラ戦のみでは敵を撃滅はできず正規戦に発展させる必要がある〉として、ゲリラ戦を正規戦へと漸次的に発展すべきものと位置づけている。また、ゲリラ戦実施に際して、非軍事的側面、とくに住民の支援・協力の獲得の必要性が強調されている。それらの諸論から、ゲリラ